

ローマストスパンカー 取付・取扱説明書

この度は、ローマストスパンカーをお買い上げいただき誠にありがとうございます。

- この製品は、小型フィッシング艇向けに開発されたスパンカーです。流し釣りの際にご利用ください。また、他の用途には使用しないでください。
- 製品の取り付け・操作を行なう前に、この取扱説明書を必ずよくお読みいただき、十分に内容を理解してください。
- 取り付けには、専門の技術が必要になります。ヤマハASS認定店に取り付けを依頼してください。
- ヤマハ適応艇種の取付方法については、ヤマハモデルガイド及びヤマハサービスガイドを参照してください。
- 適応以外の艇種につきましては、ワイズギア社製巻取り式スパンカーをお勧めします。
- この取付・取扱説明書は大切に保存し、いつでも見られるようにしておいてください。また、製品を譲渡する場合は一緒にお渡しください。

目次

安全上のご注意	1	取扱方法	
商品の特長	2	展開のしかた	22
スパンカー効果・艇のコントロール	3	収納のしかた	24
各部の名称と付属品の確認	4	回転格納のしかた	26
■各部の名称	4	格納状態から収納状態にする場合	28
■構成部品表	5		
取付前の確認	6	定期点検	30
■マストステップ取付位置の確認	6	スパンカーによる船の流し方	31
■サイドロープ用アイプレート取付位置の確認	6	保証書	巻末
取付方法			
艇体側	7		
■マストステップの取り付け	7		
■サイドロープ用アイプレートの取り付け	8		
スパンカー側	9		
■マストクリート・ブームクリートの取り付け	9		
■ガフパイプ・ブームの組み付け	10		
■各ロープ・セイルの装着	11		
■ロープの調整	17		

安全上のご注意

ご使用の前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。

ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくお使いいただき、お客様や他の人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。

また、安全にご使用いただくために、次のような内容で使い分けてあります。

警告

- 取り扱いを誤った場合、死亡または重傷および傷害に至る可能性が想定される場合を示しています。

注意

- 取り扱いを誤った場合、物的損害の発生が想定される場合を示しています。

要点

- この表示は正しい操作の仕方や点検整備上のポイントを示しています。

警告・**注意** は、安全に関する項目ですので、必ず守ってください。

警告

下記の項目を厳守しないと、艇体及びスパンカーの破損によるけがの恐れがあります。

- 出航前に、ブーム⑧をラックロープ⑤④でしっかりと閉じ、レイジーロープ⑦⑩を引張り固定し、セイルがばたつかないか確認してください。また、サイドロープ⑥⑥、ブームバンクロープ⑤⑤、ガフリフトロープ③⑥が張られ、しっかりと固定されているか確認してください。(ロープ名は4ページを参照)
- 余ったロープが船外機及び他の部品の作動に影響がないか確認をしてください。影響がある場合は、ロープをスパンカーや艇体に固定してください。
- 風速8.0m/sを超える(水面に波頭が立つ)場合は、セイルを収納してください。横風を受けた場合等は、ボートが風にあおられ転覆する恐れがあります。
- 停泊中に強風発生が予測される場合は、スパンカーを回転格納するか、マストステップ⑦⑦から外してデッキにロープでしっかりと固定してください。
- 幼児や子供に操作させないでください。
また、同乗者に操作させる場合は、船長の責任下にて行なってください。

注意

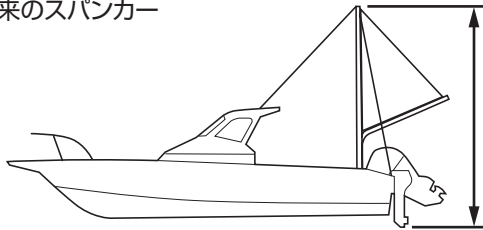
- セイルに後方や横から風を受けると過大な力が掛かり、スパンカーが破損する場合があります。セイルを展開させるときは風を前方から受けるようにしてください。
- セイルを展開したまま旋回走行をしないでください。セイルが受ける風向きが変わるときに過大な力が発生し、スパンカーを破損させる恐れがあります。
- セイルを展開したまま航走しないでください。航走する場合は、セイルを収納状態(24~25ページ参照)にして、セイルを確実に固定してください。
- 格納状態(26~27ページ参照)では、航走しないでください。セイルに風が入り、ばたつく場合があります。
- 取り付けには専門の技術が必要ですので、お買い上げの販売店に依頼してください。
- 収納時のスパンカーの高さより低い橋梁の下を通る場合は、スパンカーをマストステップ⑦⑦から抜いて取り外してください。
- ロープの磨耗を定期的に点検し、外皮がめくれてきたら交換してください。
- 30ページに記載の定期点検項目を必ず実施してください。

商品の特長

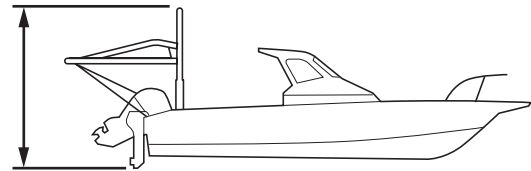
1) マスト長が短く、セイルを収納するだけで橋梁などの高さ制限のある場所でも、容易に通過できます。

ただし、収納時のスパンカーの高さより制限が低い場合は、スパンカーをマストステップ⑳より外してください。

従来のスパンカー



ローマストスパンカー(収納状態)

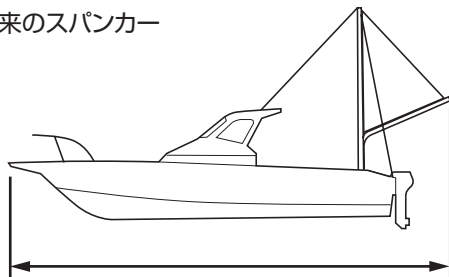


2) セイルの左右角度調整を、マスト付近にあるロープで容易に操作できます。

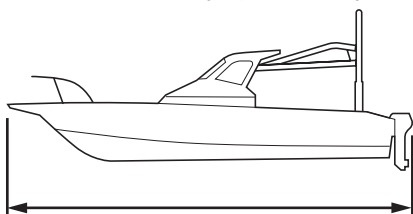
3) セイルの展開・収納が短時間で容易に行なえます。

4) 離岸・着岸や保管時には、スパンカー全体を前方へ回転格納でき、全長短縮できます。

従来のスパンカー





ローマストスパンカー(回転格納状態)

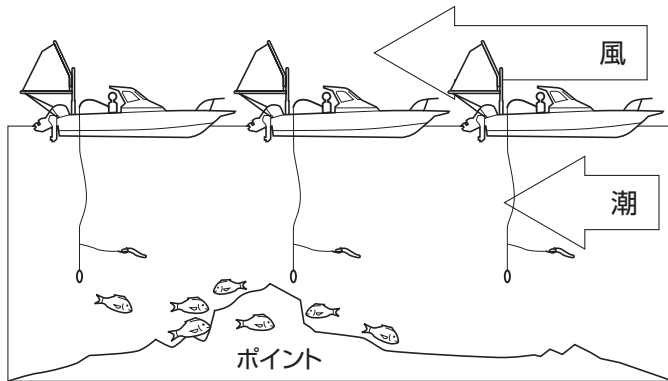


スパンカー効果・艇のコントロール

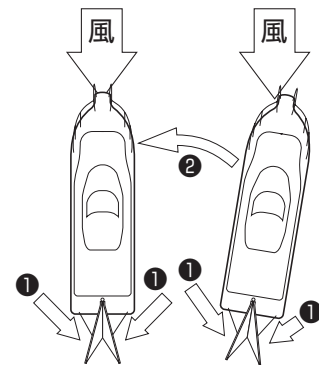
■スパンカー効果

流し釣り（アンカーリングをしない釣り）で、船首を風上方向に向けて艇を潮と一緒に流す（図A）ときは、スパンカーを張り、船首を風上に向ける（図B）ことで、風によってスパンカーに （図Bの①）の向きの揚力を発生させることができます。

この力は、船首が風上に近い方向にある場合には、この揚力で船首を風上に向ける力 （図Bの②）が働きます。




図A

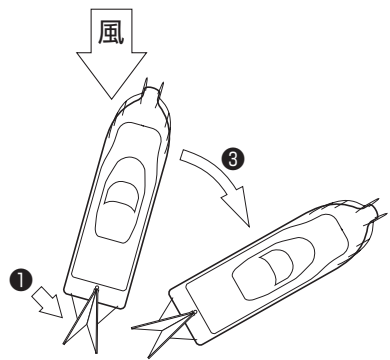


船首の振れ角度が小さければ
船首は風上に戻る

図B

■艇のコントロール

風向きと船首の振れ角度が小さければ、図Bの右図のように船首は風上に戻りますが、艇の振れ角度が大きくなると図Cのようにスパンカーの揚力より、船首を風下に向けようとする力（図Cの③ ）が大きくなるため、船首を風上にコントロールし、保持することができなくなります。したがって、風向きが変わったり船首が波などで振られた場合には、早い段階で、シフト・スロットル・ステアリングの操作を行なって船首向きの補正が必要となります。

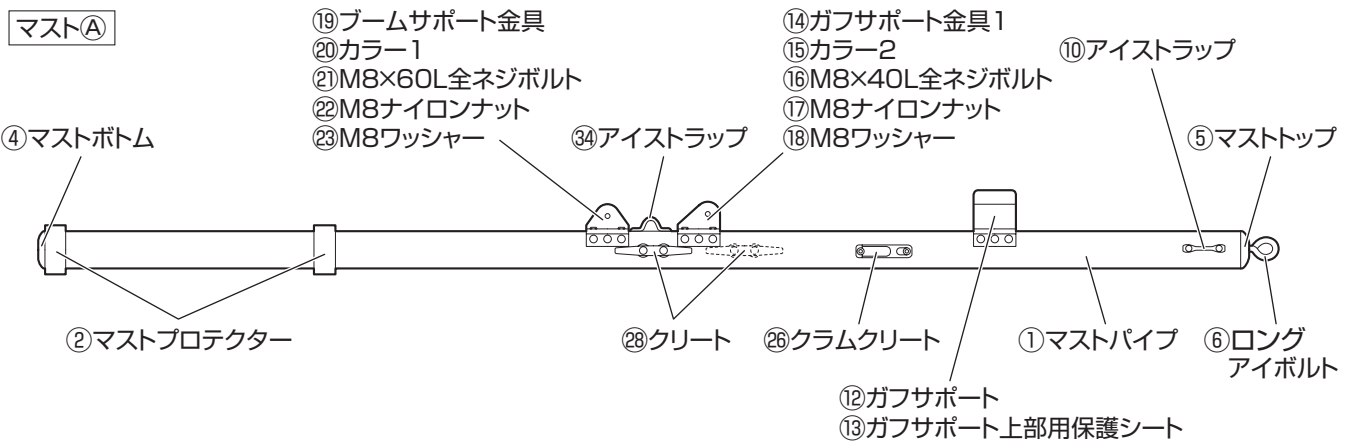
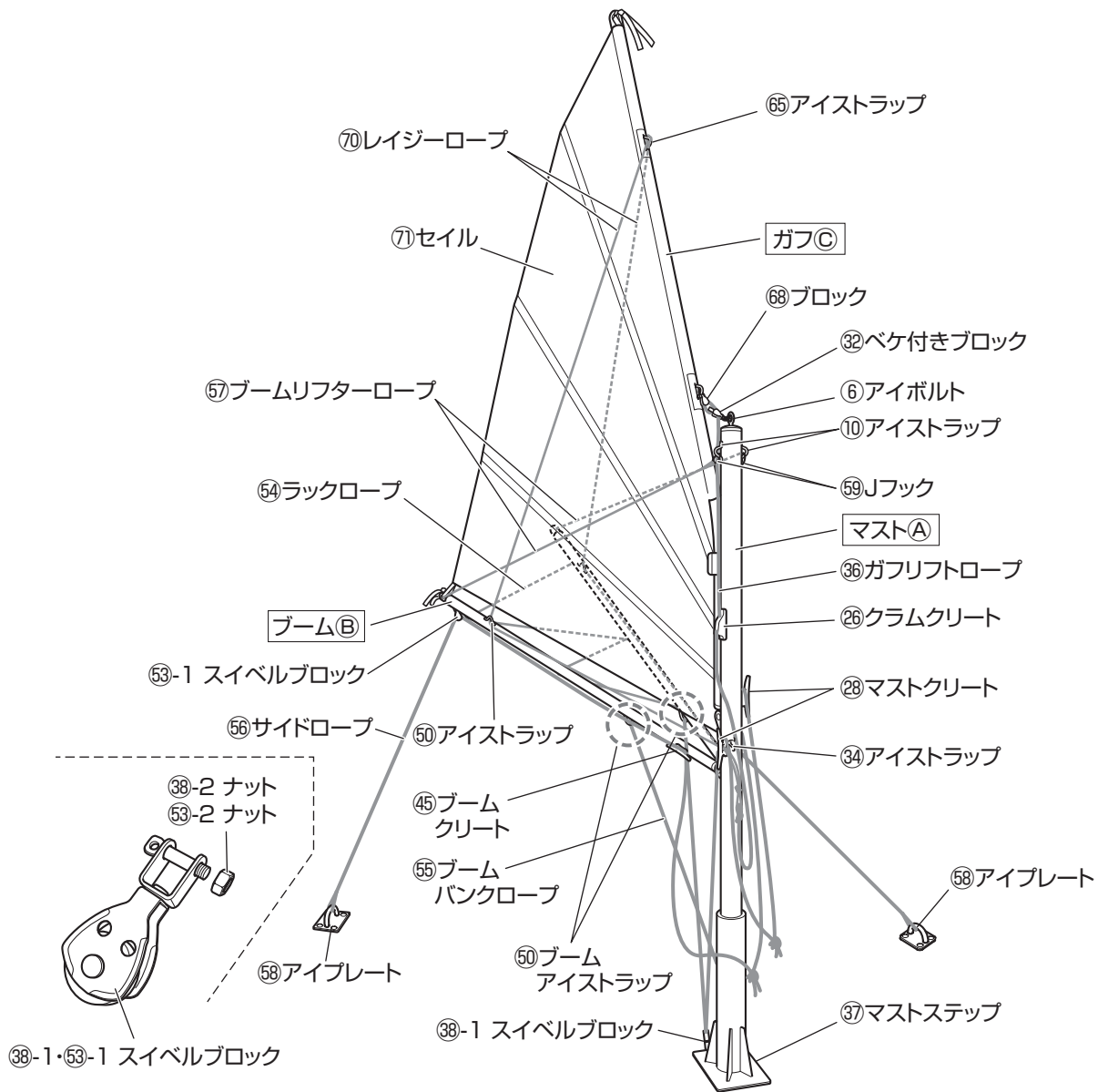


船首の振れ角度が大きくなると
船首は風下に流されてしまう

図C

各部の名称と付属品の確認

■ 各部の名称



各部の名称と付属品の確認

■ 構成部品表

カテゴリー	No.	部品名称	個数	備考
マスト [Ⓐ]	①	マストパイプ	1	φ55×2.5t ×1700L
	②	マストプロテクター	2	φ68-φ55.8
	③	M5×20L 皿タッピング	4	マストプロテクター用
	④	マストボトム	1	黒
	⑤	マストトップ	1	黒
	⑥	ロングアイボルト LE-8M	1	
	⑦	M8ナット	1	ロングアイボルト用
	⑧	M8ナイロンナット	1	ロングアイボルト用
	⑨	M8ワッシャー	2	ロングアイボルト用
	⑩	アイストラップ 6mm	2	
	⑪	リベット2 (アイストラップ用)	4	φ4.8×14.4
	⑫	ガフサポート	1	
	⑬	ガフサポート上部用 保護シート	2	ナイロン500テープ 0.3t*58*58
	⑭	ガフサポート金具1	1	
	⑮	カラー2	1	ガフサポート用 φ12-φ8-20L
	⑯	M8×40L 全ネジボルト	1	ガフサポート用
	⑰	M8ナイロンナット	1	ガフサポート用
	⑱	M8ワッシャー	2	ガフサポート用
	⑲	ブームサポート金具	1	
	⑳	カラー1	1	ブームサポート用 φ12-φ8-40L
	㉑	M8×60L 全ネジボルト	1	ブームサポート用
	㉒	M8ナイロンナット	1	ブームサポート用
	㉓	M8ワッシャー	2	ブームサポート用
	㉔	リベット1 (サポート金具用)	22	φ4.8×12.7 モネル
	㉕	M5×30L ナベ頭タッピング	2	(ガフサポート金具1用)
	㉖	クラムクリート	1	アルミ
	㉗	リベット2 (クラムクリート用)	2	φ4.8×14.4
	㉘	クリート110	2	ナイロン
	㉙	M4×80L皿小ネジ	4	クリート用
	㉚	M4ワッシャー	4	クリート用
	㉛	M4ナイロンナット	4	クリート用
	㉜	ブロックPBK25	1	ベケ付
	㉝	シャックル 5mm	2	
	㉞	アイストラップ 6mm	1	
	㉟	リベット2 (アイストラップ用)	2	φ4.8×14.4
	㊱	ガフリフトロープ φ6×3.2M	1	ハイパー24 レッド

カテゴリー	No.	部品名称	個数	備考
マスト ステップ	⑳	マストステップ	1	
	㉟-1	ブロックPBS25	2	スイベル付き
	㊱-2	ナット	2	M5
	㊲	シャックル 5mm	2	
ブーム [Ⓑ]	㊳-1	ブームパイプ 右舷側	1	φ32×2t×2091L
	㊳-2	ブームパイプ 左舷側	1	φ32×2t×2091L
	㊴	ブームエンド	2	黒
	㊵	リベット2 (ブームエンド用)	2	φ4.8×14.4
	㊶	ブームエンド2	2	
	㊷	リベット2 (ブームエンド2用)	8	φ4.8×14.4
	㊸	クリート110	2	ナイロン
	㊹	M4×60L皿小ネジ	4	クリート用
	㊺	M4ワッシャー	4	クリート用
	㊻	M4ナイロンナット	4	クリート用
	㊼	クリートナット保護用 テープ	2	ナイロン500テープ 0.3t*10*50
	㊽	アイストラップ 6mm	10	
	㊾	リベット2 (アイストラップ用)	16	φ4.8×14.4
	㊿	リベット1 (後端アイストラップ用)	4	φ4.8×12.7 モネル
	㉑-1	ブロックPBS25	2	スイベル付き
	㉑-2	ナット	2	M5
	㉒	ラックロープ φ4×4.4M	1	プレストレッチ
	㉓	ブームバンクロープ φ6×3.1M	2	ハイパー24 ブルー
	㉔	サイドロープ φ6×12.2M	1	ハイパー24 グリーン
	㉕	ブームリフターロープ φ4×2.6M	2	プレストレッチ
㉖	アイプレート 6mm	2	艇体用	
㉗	Jフック 6mm	2		
ガフ [Ⓒ]	㉘	ガフパイプ	1	φ32×2t×2481L
	㉙	ブームエンド	1	黒
	㉚	リベット2 (ブームエンド用)	1	φ4.8×14.4
	㉛	ガフエンド	1	
	㉜	リベット2 (ガフエンド用)	4	φ4.8×14.4
	㉝	アイストラップ 6mm	2	
	㉞	リベット2 (アイストラップ用)	2	φ4.8×14.4
	㉟	リベット1 (ガフリフト アイストラップ用)	2	φ4.8×12.7 モネル
	㊱	ブロックPB25	1	
	㊲	シャックル 5mm	1	
セイル	㊳	レイジーロープ φ4×8.1M	1	プレストレッチ
㊴	セイルクロス	1	ポリエステル (ダクロン青)	

取付前の確認

■ マストステップ取付位置の確認

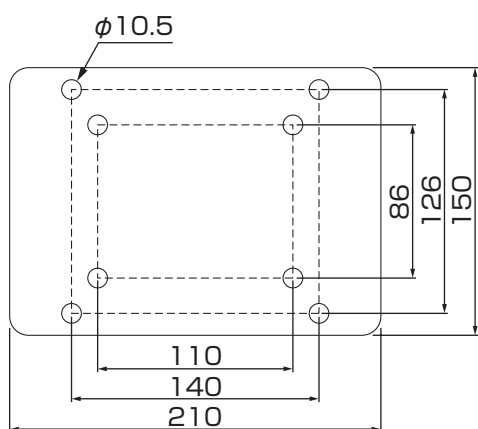
マストステップ③⑦は、補強の入ったデッキまたはトランサムボードに取り付けたヤマハ純正オプション専用ブラケットに取り付けます。

デッキに取り付けする場合は、下記の点に注意して取付位置を決めてください。

- マストステップ③⑦のベース部よりデッキの取付面（平面部）が大きい
- デッキ裏面にφ32以上のワッシャーが使用可能な場所である
- 取付面に十分な補強が入っていること

注意

- 風や手でスパンカーを揺すったとき、取付面全体が動いてしまう場合は、補強の追加やフォアステーロープ（現地手配）で固定するなどの対処をしてください。そのまま使用すると、スパンカーまたは艇体が破損する恐れがあります。



■ サイドロープ用アイプレート取付位置の確認

ブーム④の位置及び開き角度の調整範囲を広くするため、マストステップ③⑦より両舷方向にできるだけ離してアイプレート⑤⑧を取り付けます。（図A参照）

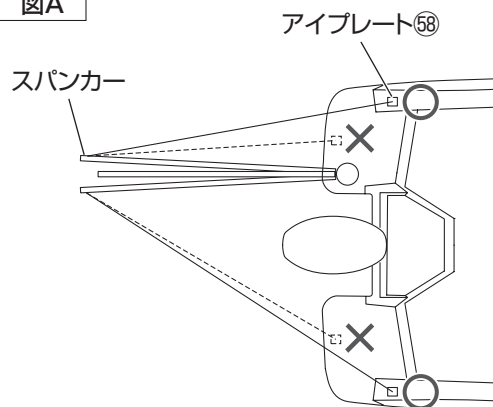
下記の点に注意して取付位置を決めてください。

- ロープがエンジンやその他艀装品に干渉しないこと
- マストステップ③⑦上面より低い位置に取り付けること（図B参照）
- M4皿ボルト・平ワッシャー・ナイロンナット（各部品とも現地手配）で固定できることを確認してください。

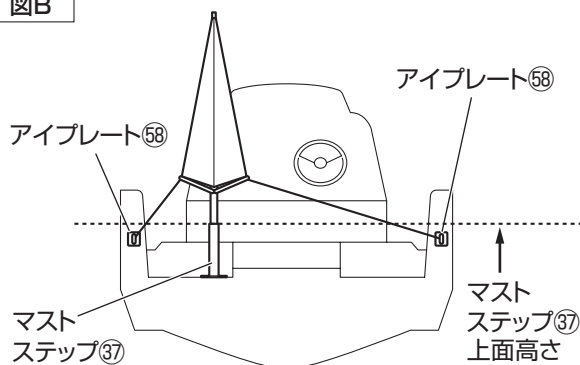
要点

- ヤマハ艇で本製品が用品オプションとして設定されている艇種は、艇別サービスガイドに記載されている位置に取り付けてください。

図A



図B



取付方法 艇体側

■ マストステップの取り付け

FRPのデッキに取り付ける場合について説明します。

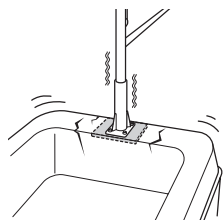
- (1) 「取付前の確認」(6ページ参照)を参考にして、取付位置を決めます。
- (2) マストステップ③をボートの中心線とマストステップ③の中心線に合わせ、向きに注意して取付孔をケガキます。(右図参照)

要 点

- ヤマハ艇で本製品が用品オプションとして設定されている艇種は、ヤマハサービスガイドに記載されている位置に取り付けてください。
 - 通常は外側の取付孔を使用します。
 - 既存のワイズギアスパンカーマストステップ③取付孔を使用する場合は内側の取付孔を使用してください。
 - ローマストスパンカー専用ブラケット以外は使用しないでください。
- (3) 取付孔の中心を結ぶ四角形が126×140mmになっていることを確認し、φ10.5mmのドリルで4ヶ所、孔をあけます。
 - (4) 向きに注意してマストステップ③を取付孔に合わせます。(右上図参照)
SUS製M10ボルト(現地手配)と取付孔周りにシリコンを塗布し、M10ワッシャー(現地手配)をはさんでボルトを取付孔に入れ、裏側よりφ32mm大ワッシャー(現地手配)・スプリングワッシャー(現地手配)・M10ナイロンナット(現地手配)で固定します。

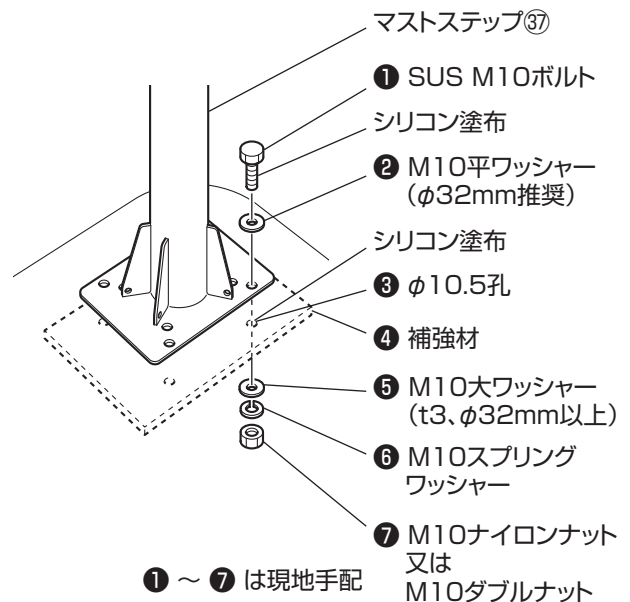
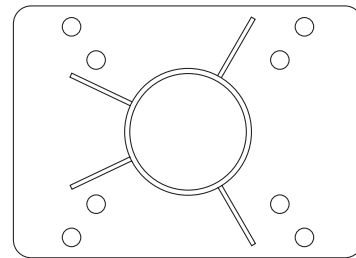
注 意

- 補強材がないところに取り付けた場合、艇体の破損につながる恐れがあります。また、風や手でスパンカーを揺すったとき、取付面全体が動いてしまう場合は、補強の追加やフォアステーロープ(現地手配)で固定するなどの対処をしてください。そのまま使用すると、スパンカーまたは艇体が破損する恐れがあります。



マストステップ上面図

船首 ←

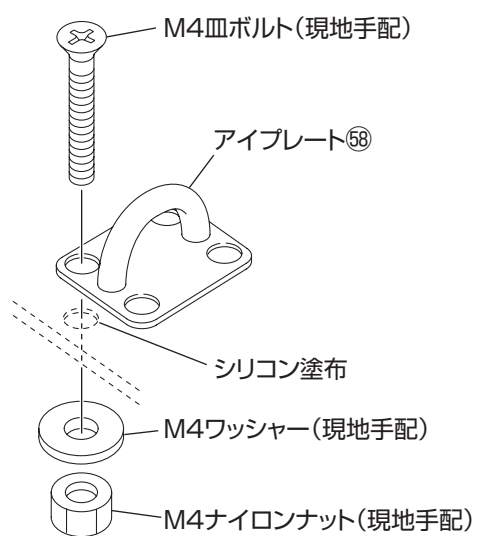


注 意

- ②M10平ワッシャーは取付可能な範囲で、外径が大きいワッシャーを使用してください。
- ⑤M10大ワッシャーは、t3 φ32mm以上のワッシャーを使用してください。

■ サイドロープ用アイプレートの取り付け

- (1) 「取付前の確認」(6ページ参照)を参考にして、取付位置を決めます。
- (2) M4皿ボルト(現地手配)と取付孔周りにシリコンを塗布し、ボルト・M4ワッシャー(現地手配)・M4ナイロンナット(現地手配)で固定します。



取付方法 スパンカー側

マストステップ③⑦にマスト①を差し込み、船上で作業をするか、陸上で組み立ててからマストステップ③⑦に差し込むか、作業方法を選択します。

※この取付方法は、地面に置いた状態での取り付けを説明しています。そのため、イラストの向きが上下逆になっているものがありますので予めご了承ください。

警告

- 風の強い場所では陸上で組み立ててから艇体に取り付けてください。

要点

- 陸上で組み立てる場合、マストステップ③⑦を固定し、マスト①を差し込んで作業すると、作業がしやすくなります。

■ マストクリート・ブームクリートの取り付け

(1) 右図の位置にマスト①・ブーム②のクリートを、M4皿ボルト・M4ワッシャー・M4ナイロンナットで取り付けます（締め付けトルク1.5N・m）。クリートのパイプに接する面全体にシリコンを塗布します。

(2) ブームクリート④⑤を固定しているボルト④⑥をカットします。

参考寸法 M4皿ボルト④⑥：60mm → 57mm

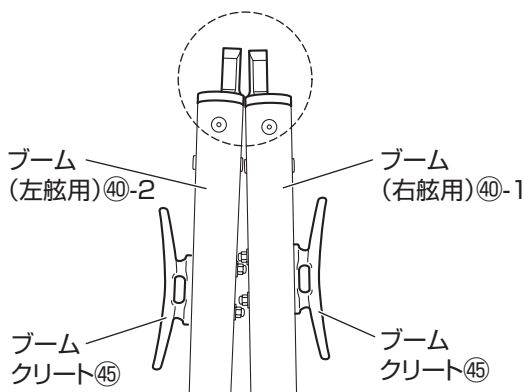
使用工具例：電装圧着工具のボルトカッター

注意

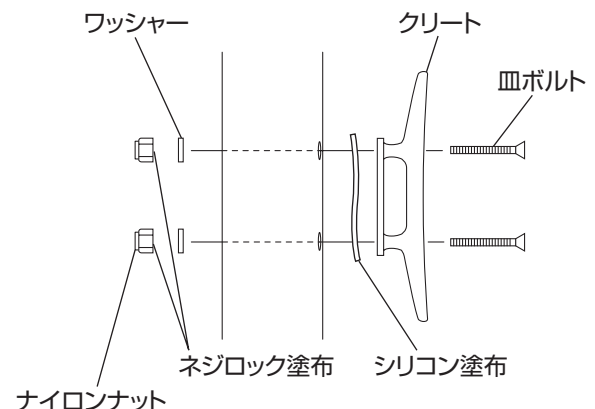
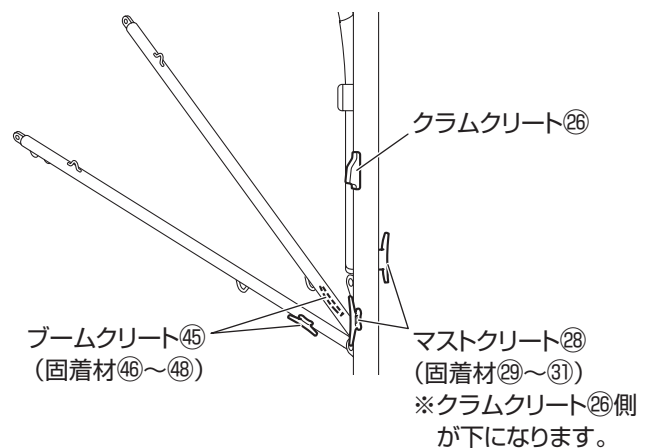
- ボルトの先端がナイロンナットよりも出ていると、ブーム②を傷つける原因となります。ナットの頭に合わせるようにボルトの先端を切り取ってください。

要点

- ブームクリート④⑤は、取付位置に注意をして下図の位置に取り付けます。



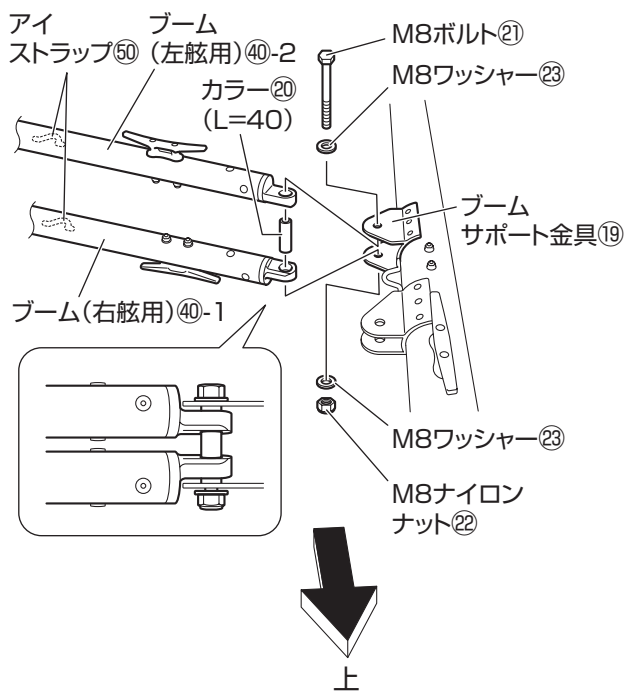
(3) 余分なシリコンを拭き取ります。



■ ガフパイプ・ブームの組み付け

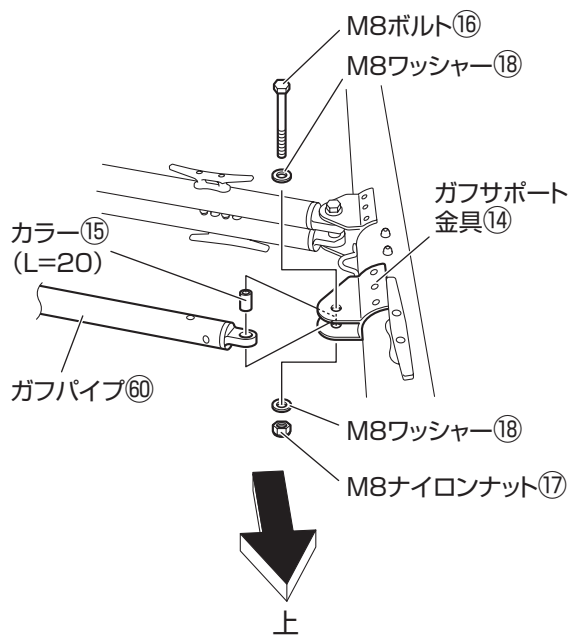
- (1) ブーム⑧の方向を確認し、ブームサポート金具⑱にカラー⑳ (L=40) ・ M8ボルト㉑ (L=60) ・ M8ワッシャー㉒2枚 ・ M8ナイロンナット㉓で取り付けます。

(締め付けトルク15N・m)



- (2) ガフパイプ⑥①の方向を確認し、ガフサポート金具⑭にカラー⑮ (L=20) ・ M8ボルト⑯ (L=40) ・ M8ワッシャー⑰2枚 ・ M8ナイロンナット⑰で取り付けます。

(締め付けトルク15N・m)



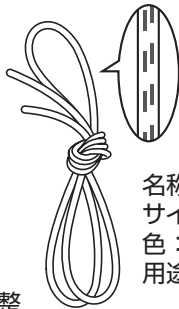
■ 各ロープ・セイルの装着

⚠ 警告

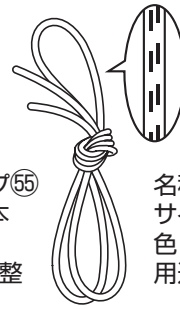
- 風の強い場所では作業しないでください。セイルを展開したとき風にあおられ、思わぬけがをする恐れがあります。船上で組み付ける場合は特に注意してください。



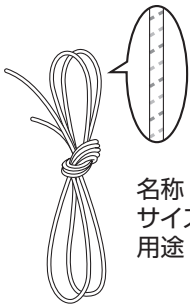
名称：サイドロープ⑥⑥
 サイズ：φ6×12.2m
 色：グリーン
 用途・ブームⓅの位置調整
 ・ブームⓅの開き角度調整
 ・セイルカーブの調整



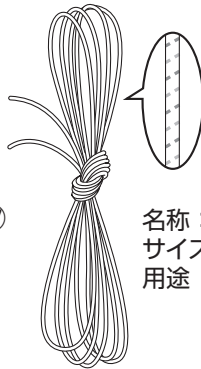
名称：ブームバンクロープ⑥⑤
 サイズ：φ6×3.1m 2本
 色：ブルー
 用途・セイルカーブの調整



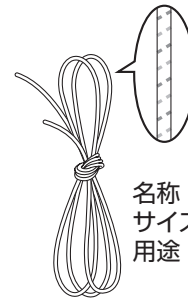
名称：ガフリフトロープ⑥⑥
 サイズ：φ6×3.2m
 色：レッド
 用途・セイルの展開・収納



名称：ブームリフターロープ⑥⑦
 サイズ：φ4×2.6m 2本
 用途・収納時のブームⓅの
 高さ調整



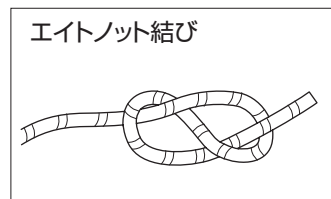
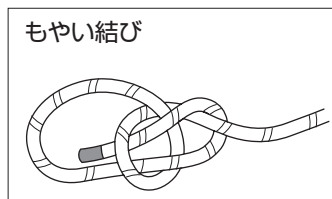
名称：レイジーロープ⑥⑩
 サイズ：φ4×8.1m
 用途・収納時のセイルの
 バタツキ防止
 ・収納後のセイル
 左右方向の収束



名称：ラックロープ⑥④
 サイズ：φ4×4.4m
 用途・ブームⓅの
 開き角度調整
 ・収納後のセイルの
 バタツキ防止

1. ロープの結び方

本書中に出てくるもやい結び、エイトノット結びは下図のように結びます。



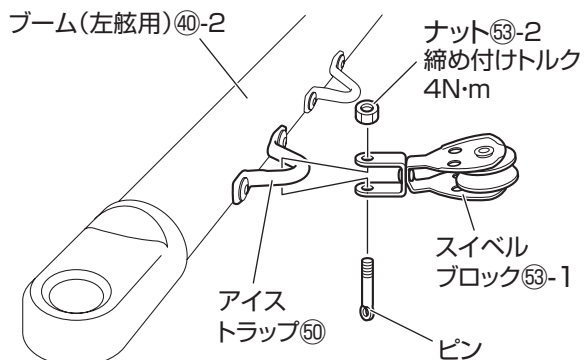
2. サイドロープ⑤⑥

使用ロープ φ6×12.2m グリーン

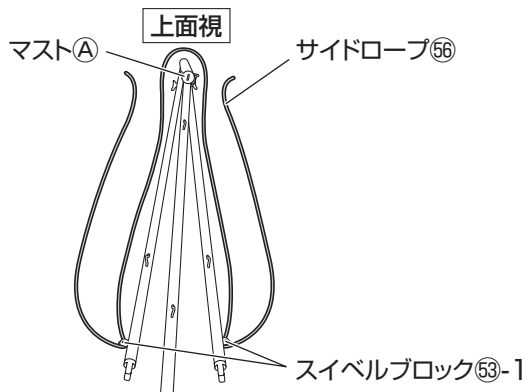
- (1) 左右ブーム④の先端にあるアイストラップ⑤⑥にスィベルブロック⑤③-1を取り付け、φ6（グリーン）のロープを下図のように通します。

要 点

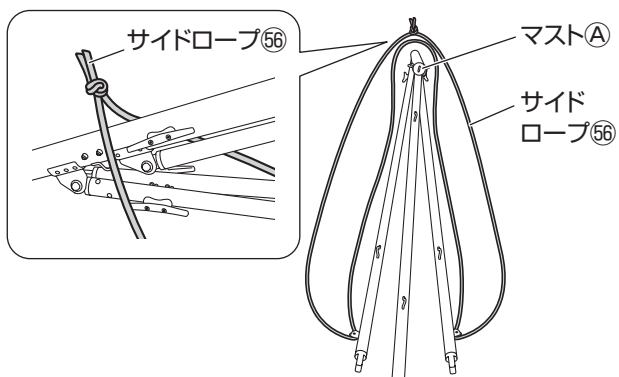
- シャックルのピンは外側から差し込みます。



上図は左舷側です。右舷側はピンの差し込む方向が逆になります。



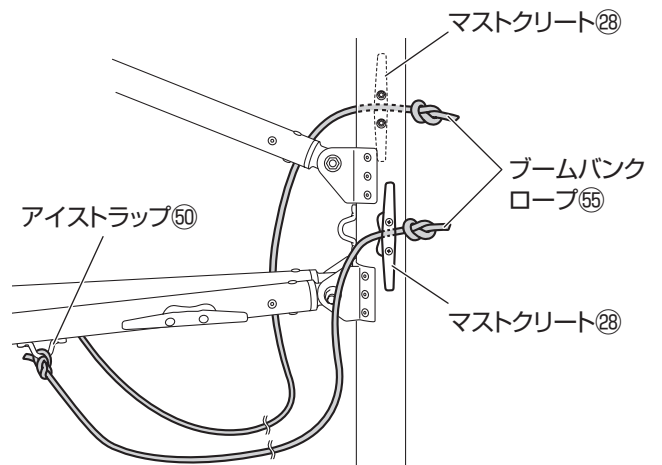
- (2) 通した後はロープが抜けるのを防ぐため、マスト①Aに掛かるようにロープの両端を結びます。(仮止め)



3. ブームバンクロープ⑤⑤

使用ロープ φ6×3.1m ブルー 2本

- (1) 先端を前側のブームアイストラップ⑤⑥にもやい結びで固定します。(4ページ参照)
(両舷)
- (2) ロープをマストクリート②⑧に通し、抜けないようにエイトノットで結びます。(抜け止め)



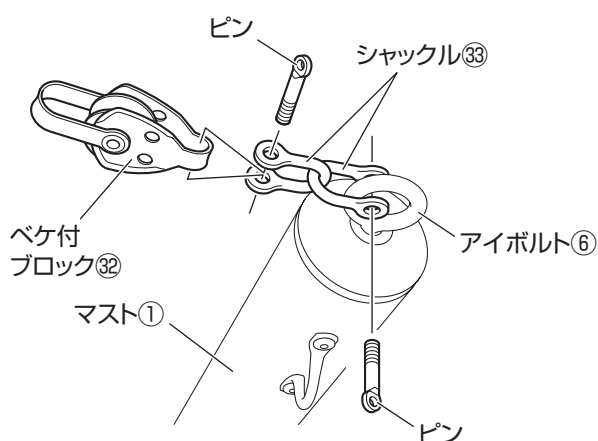
4. ガフリフトロープ③⑥

使用ロープ φ6×3.2m レッド

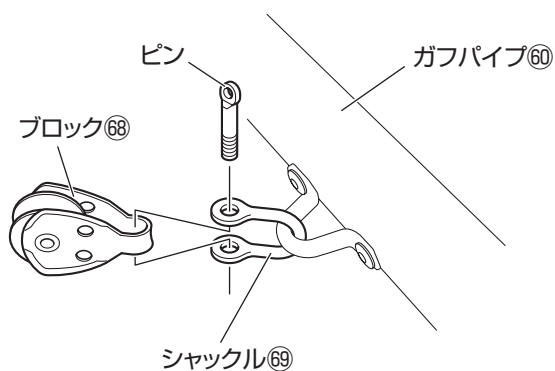
- (1) マストトップのアイボルト⑥にシャックル③③個・ベケ付ブロック③②を取り付けます。

要 点

- 2つのシャックル③③を向かい合わせて取り付けます。

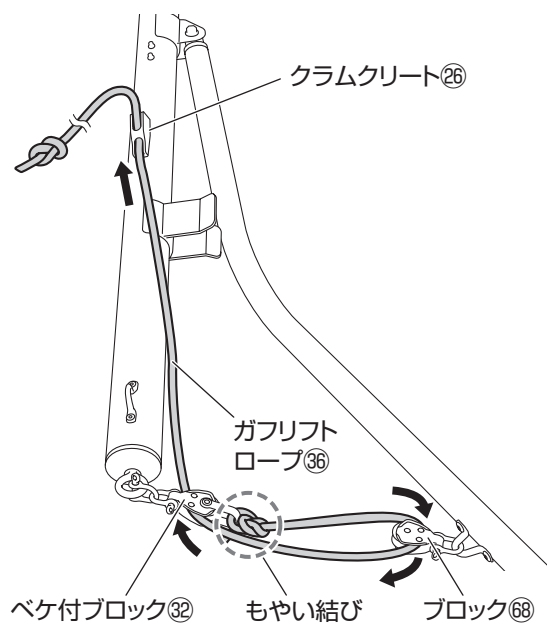


- (2) ガフパイプ⑥⑩のマスト側にあるアイストラップ⑥⑤にシャックル⑥⑨・ブロック⑥⑧を取り付けます。



- (3) ロープ先端をベケ付ブロック③②にもやい結びで結び、ガフパイプ⑥⑩のブロック⑥⑧ (右舷→左舷) ⇨ ベケ付ブロック③② (左舷→右舷) ⇨ クラムクリート②⑥の順に通します。

- (4) ロープが抜けないように、ロープの先端はエイトノットで結びます。



要 点

- 結び目は、なるべく小さくしてください。結び目が大きいとスパンカーを最大位置まで展開できなくなります。
- ガフリフトロープ③⑥を引き、ベケ付ブロック③②とブロック⑥⑧がスムーズに動くことを確認してください。

5. セイルの装着

(1) 「取付方法 4.の(2)」で装着したガフパイプ⑥のアイストラップ⑥に固定されているブロック⑧を取り外します。

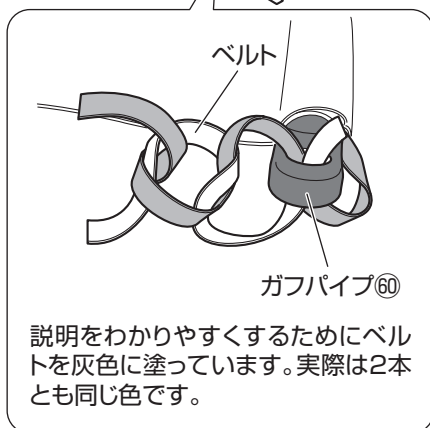
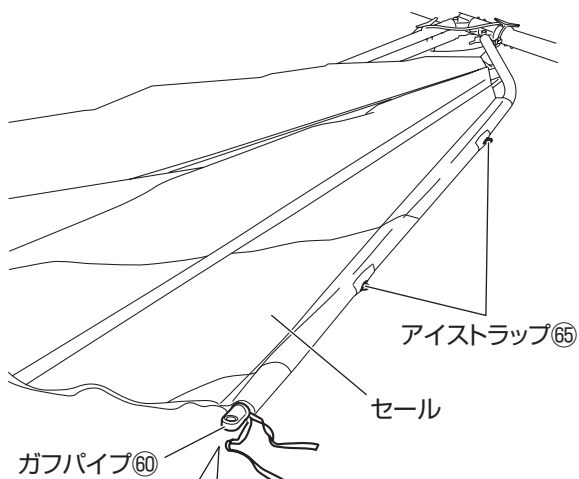
(2) セイルの袋部をガフパイプ⑥に通します。

(3) セイルの切り欠き部にガフパイプ⑥のアイストラップ⑥を合わせ、(1)で外したブロック⑧を取り付けします。

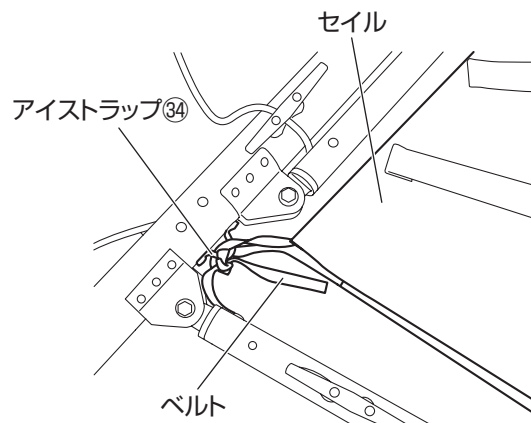
要 点

- 取付方向を間違えないように注意してください。

(4) セイル先端のベルトをガフパイプ⑥の先端に結びます。



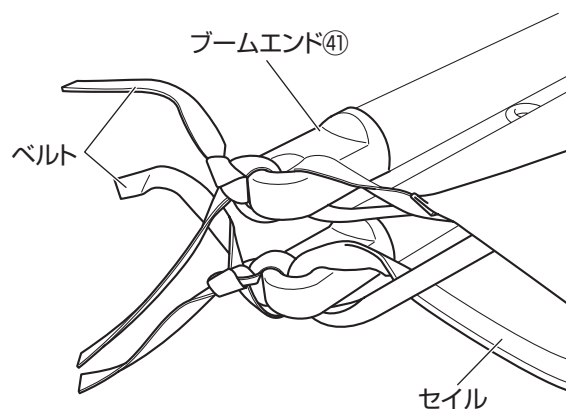
(5) マスト①のアイストラップ③にセイルのベルトを結びます。(仮止め)



(6) ガフ③を引き上げてセイルを展開し、セイルの位置決めをしてブームエンド④にセイルのベルトを結びます。

⚠ 警告

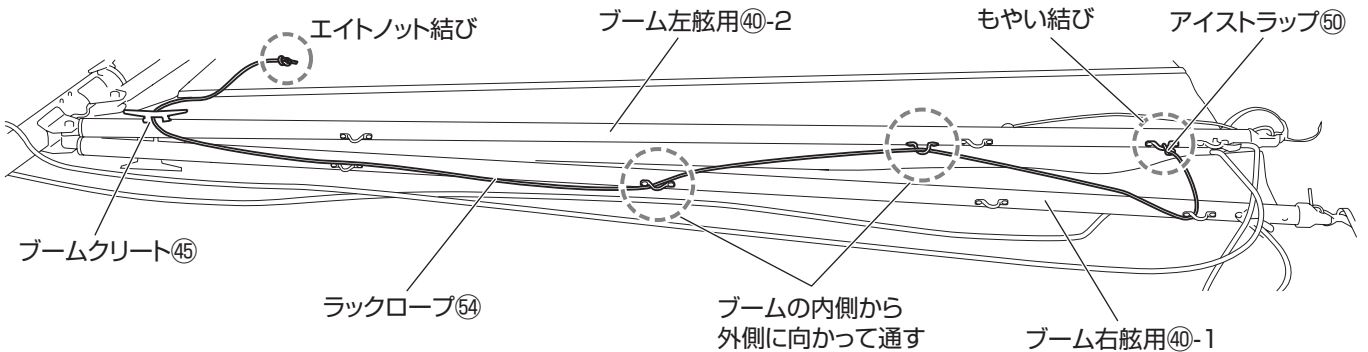
- 風が強いときは、マスト①を立てた状態でセイルを展開しないでください。セイルが風にあおられ、思わぬけがをする恐れがあります。



6. ラックロープ⑤④

使用ロープ φ4×4.4m

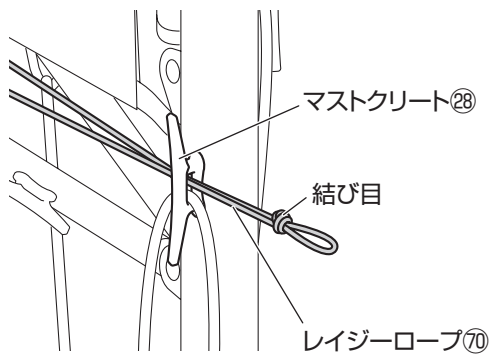
- (1) 左舷側ブーム④②のアイストラップ⑤①にラックロープ⑤④をもやい結びで固定し、サイドロープ⑤⑥の上側で右舷と左舷のブームのアイストラップ⑤①に交互に通します。
- (2) 左舷のブームクリート④⑤を下から上に通し、先端をエイトノットで結びます。(抜け止め)



7. レイジーロープ⑦⑩

使用ロープ φ4×8.1m

- (1) レイジーロープ⑦⑩を半分の位置で折り、結び目を作ります。
- (2) レイジーロープ⑦⑩の両端を右舷側マストクリート⑦⑧に通します。

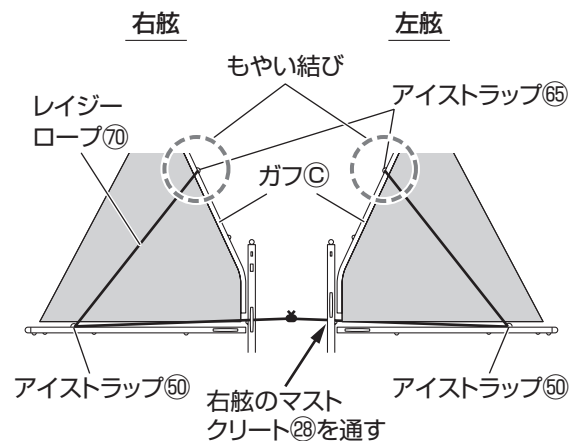


- (3) 下記のようにレイジーロープ⑦⑩を固定します。

セイルの下を通す ⇨ 外側から内側に向かって
ブーム⑧のアイストラップ⑤②を通す ⇨ ガフパイプ
⑥⑥のアイストラップ⑤③にもやい結びで固定

要 点

- ラックロープ⑤④とサイドロープ⑤⑥の上側になるように通してください。



8. ブームリフターロープ⑤⑦

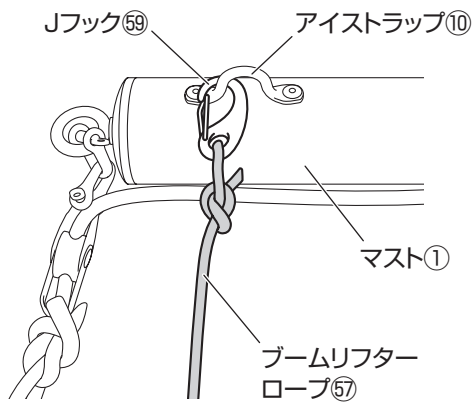
使用ロープ φ4×2.6m 2本

- (1) ブームエンド④にもやい結びで固定します。
(両舷)

要 点

- ブームリフターロープ⑤⑦は、セイル⑦①、レイジーロープ⑦⑩の外側を通します。

- (2) 反対側の先端にJフック⑥⑨を付け、マスト①のアイストラップ⑩に仮止めします。(両舷)



要 点

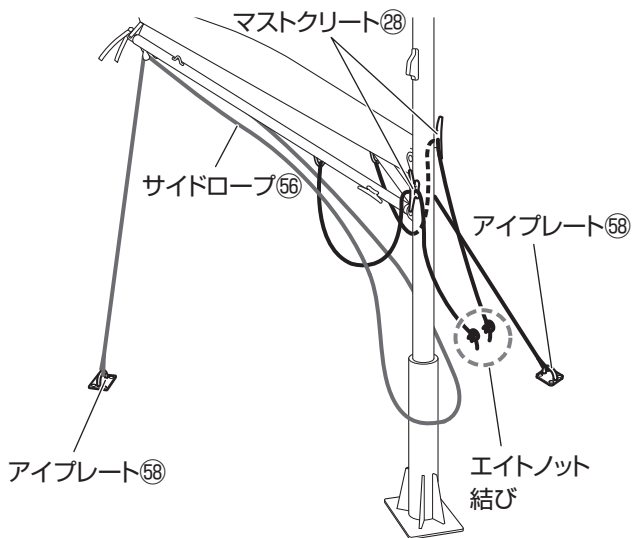
- 陸上で作業した場合は、この状態で艇体に取り付けます。

■ ロープの調整

1. サイドロープ⑤⑥の調整

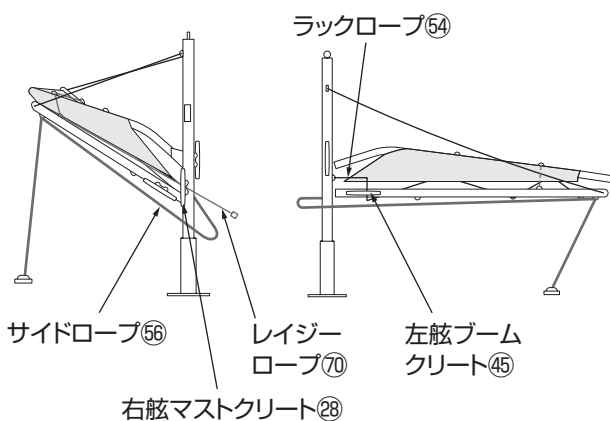
(1) スパンカーをマストステップ③⑦に差し込み、収納状態にします。(収納は24～25ページ参照)

(2) サイドロープ⑤⑥の両端を艇体側アイプレート⑤⑧に固定します。



(3) ラックロープ⑤④引っ張り、左舷ブームクリート④⑤に固定します。(ブーム⑧を閉じた状態)

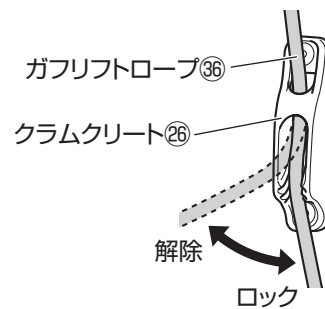
(4) レイジーロープ⑦⑦を引っ張り、右舷マストクリート②⑧に固定します。(セイルを収束した状態)



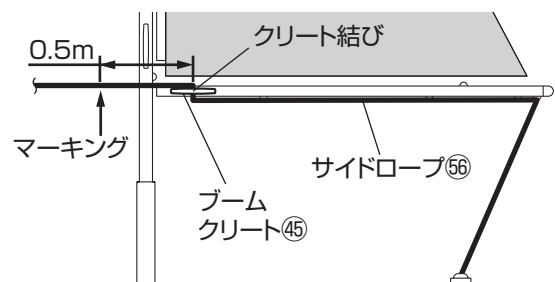
(5) ガフリフトロープ③⑥をクラムクリート②⑥の固定部から外し、セイルを収納状態のままガフリフトロープ③⑥を引っ張ってガフパイプ⑥⑩とマスト④④が平行になる位置まで引き上げます。ガフリフトロープ③⑥をクラムクリート②⑥の固定部にはさみ込みます。

要 点

- このときブーム⑧はボート中心線とほぼ平行にしておきます。



(6) サイドロープ⑤⑥を引っ張り、ブームクリート④⑤を下から上へ通し、両舷のブームクリート④⑤に固定します。この状態でブームクリート④⑤から0.5mの位置にマーキングします。(両舷)



1. サイドロープ⑤⑥の調整

- (7) 「取扱方法」を参照して展開、収納、格納の各動作が可能であるか確認します。問題なければ、マーキングした位置で切ります。
ロープの位置が違う場合（交差しているなど）は修正してください。
- (8) 2本のサイドロープ⑤⑥の先端をマスト①の前側で結びます。
- (9) ラックロープ⑤④の先端をマスト①のアイストラップ④に、長さ調整をしてもよい結びで固定します。

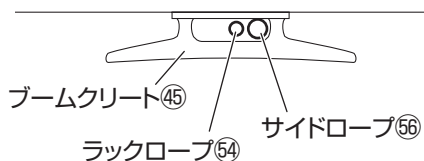
注意

- マストステップ③⑦取付面より結び目が下にならないように調整してください。ロープがプロペラに巻き込まれる恐れがあります。

要点

- サイドロープ⑤⑥でラックロープ⑤④をはさみこまないようにします。ラックロープ⑤④が動くか確認してください。

マスト①側 ←



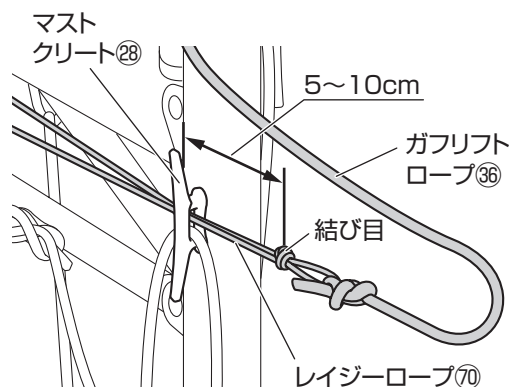
- (10) セイルを収納状態にします。

2. レイジーロープ⑦⑩の調整

- (1) 「取扱方法」を参照して、セイルを展開します。
- (2) セイル展開時にレイジーロープ⑦⑩の結び目を一端ほどき、結び目が左右同じ長さになるように調整します。下記の通りマストクリート⑧から5～10cmになるように、2本のロープの結び目を調整します。
- (3) レイジーロープ⑦⑩の結び目とガフリフトロープ⑥③の先端を結びます。

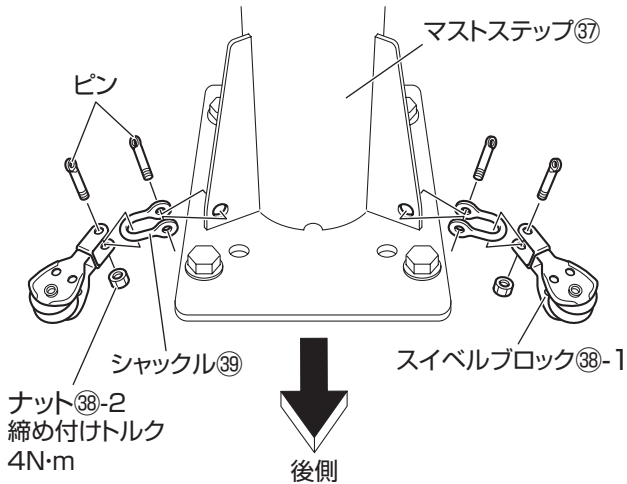
注意

- マストステップ③⑦取付面より結び目が下にならないように調整してください。ロープがプロペラに巻き込まれる恐れがあります。



3. セイル・ブームバンクロープ^{⑤⑤}の調整

(1) マストステップ^{③⑦}にシャックル^{③⑨}・スィベルブロック^{③⑧-1}を取り付けます。

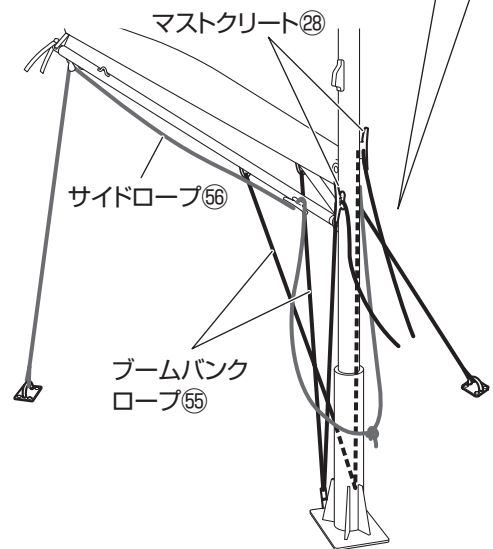
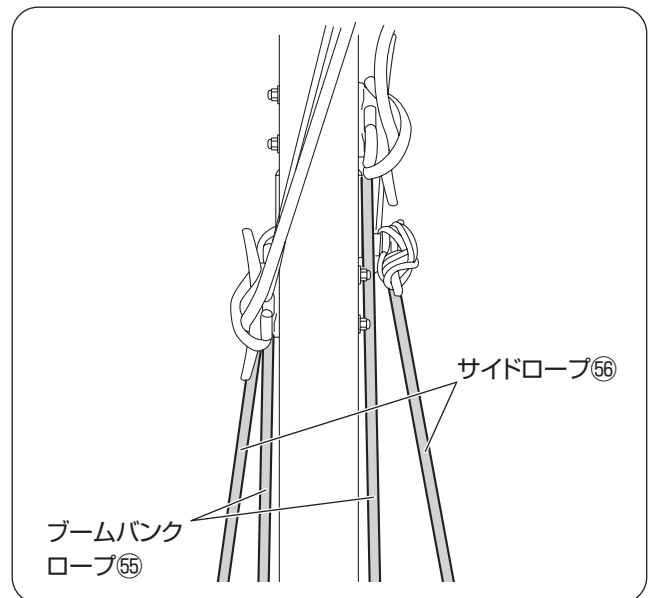


(2) 先端のエイトノット結びをほどき、ブームバンクロープ^{⑤⑤}を一端マストクリート^{②⑧}から外し、下記のように通します。

サイドロープ^{⑤⑥}の内側を通す ⇨ スィベルブロック^{③⑧-1} ⇨ マストクリート^{②⑧}の後ろ側から前側に通す

要 点

- ブームバンクロープ^{⑤⑤}がエンジンに干渉する場合は、ブームバンクロープ^{⑤⑤}を交差させてください。



(3) セイルを展開した状態にして、サイドロープ^{⑤⑥}とラックロープ^{⑤④}をブームクリート^{④⑤}に固定します。

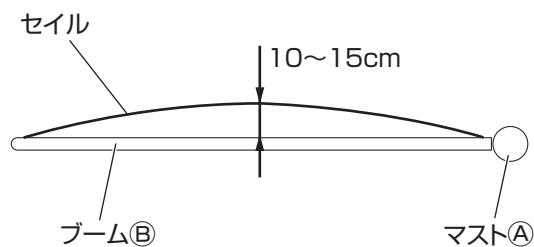
3. セイル・ブームバンクロープ⑤⑤の調整

(4) マスト①のアイストラップ④に仮止めしているセイルのベルトでセイルの張りを調整し、固定します。

要 点

- セイルの調整は、各部位のベルトを引きすぎると、セイルカーブが浅くなりすぎて、性能が低下します。風を受けたときの中央部のふくらみが10～15cm程度になるように調整してください。

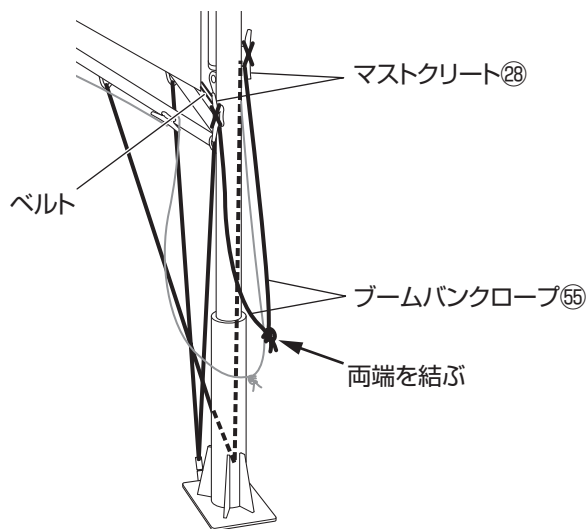
上面図



(5) 2本のブームバンクロープ⑤⑤を引っ張ってマストクリート②⑧に固定し、サイドロープ⑥⑥の内側になるようにロープの両端を結びます。

注 意

- マストステップ③⑦取付面より結び目が下にならないように調整してください。ロープがプロペラに巻き込まれる恐れがあります。

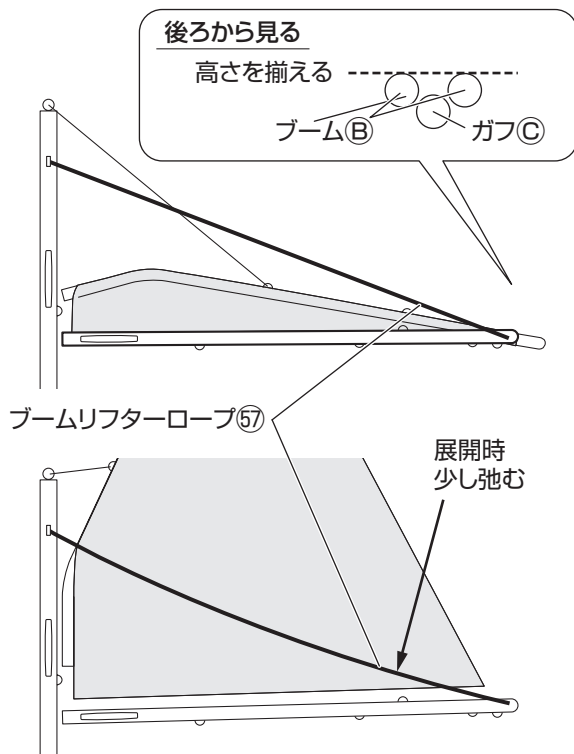


4. ブームリフターロープ⑤⑦の調整

ブームリフターロープ⑤⑦の長さを変えることで、セイル収納時のブーム先端の高さを調整することができます。

(1) セイル収納状態で右舷・左舷ともブーム⑧が同じ高さになるようにブームリフターロープ⑤⑦の長さを調整してください。また、セイル展開時にブームリフターロープ⑤⑦が少し弛む程度に調整してください。

(2) ロープが余る場合は、Jフック⑨側の先端を切り取って調整してください。



要 点

- 調整後、展開、収納、格納の各動作ができることを確認してください。
- 各ロープ、ベルトの結び目がしっかり固定されていることを確認してください。

取扱方法 展開のしかた

(1) 船首を風上に立てます。

警告

- 船首を風上に立てない状態でセイルを展開しないでください。展開したとき風にあおられ、思わぬけがをする恐れがあります。

要点

- 船首を風上に立てない状態でセイルを展開した場合、展開できない場合があります。

(2) ブームバンクロープ⑤⑤左右を緩めます。

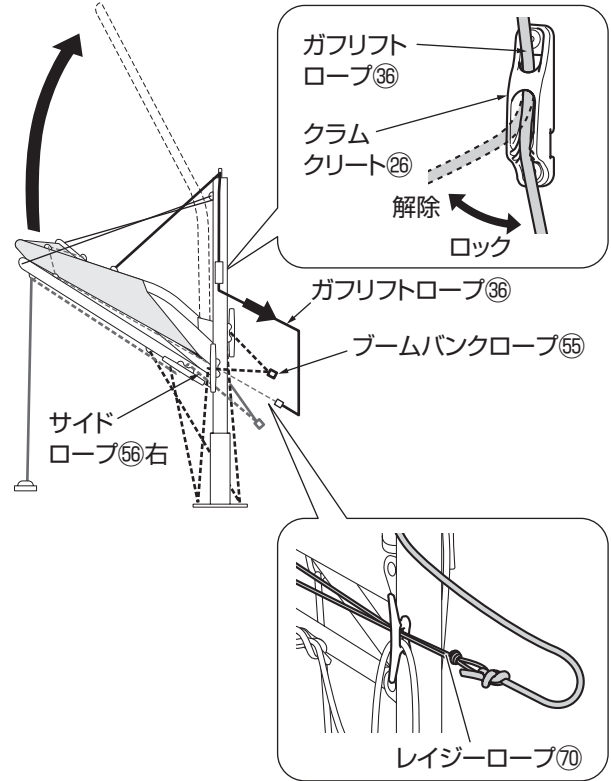
(3) マストクリート⑳に固定してあるレイジーロープ⑦⑦を緩めます。

(4) 右舷ブームクリート④④に固定してあるサイドロープ⑥⑥右を緩めます。

要点

- サイドロープ⑥⑥を緩めるため、一度ラックロープ⑤④を緩め、再度固定します。

(5) ガフリフトロープ③③をクラムクリート㉔の固定部から外し、ロープを引いてセイルを展開し、ロープをクラムクリート㉔の固定部にはめ込みます。

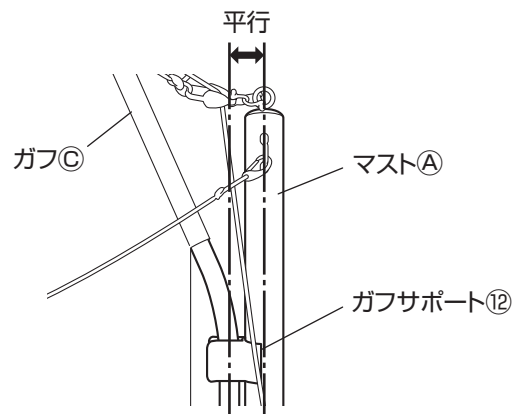


注意

- ガフ㉔がガフサポート⑫に収まっていない状態で使用すると、マスト㉔およびガフ㉔が破損する場合があります。

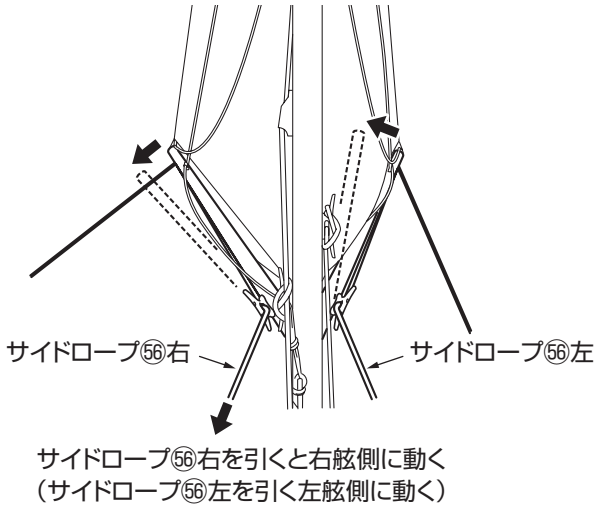
要点

- ガフ㉔をガフサポート⑫に収め、ガフ㉔とマスト㉔が平行になるまでガフリフトロープ③③を引きます。



イラストの見かた ——— (実線) = 固定されている状態 - - - - - (点線) = 緩んでいる状態 ※取扱方法のイラストは一部省略してあります。

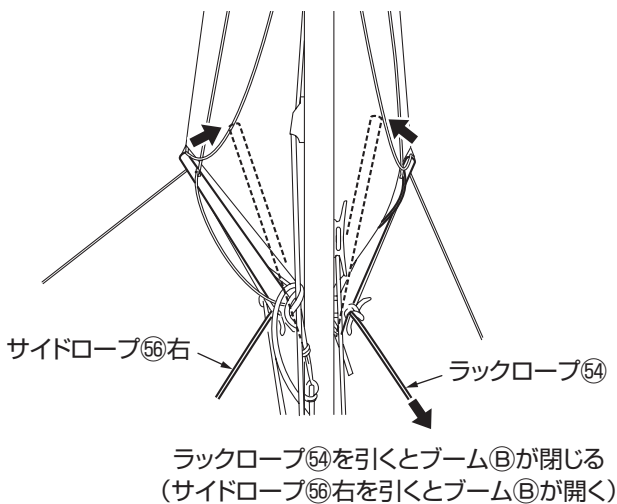
- (6) サイドロープ⑥左右を緩め、引いたり緩めたりしてブーム⑧の位置を調整し、サイドロープ⑥左はブームクリート④⑤に固定します。



- (7) ラックロープ⑤④とサイドロープ⑥右を引いたり緩めたりしてブーム⑧の開き角度を調整し、サイドロープ⑥右を固定します。

要 点

- 開き角度が一定であればその位置でラックロープ⑤④をマスト①のアイストラップ③④に結び付けておくと、次回以降の調整が容易です。



- (8) ラックロープ⑤④をブームクリート④⑤に固定します。

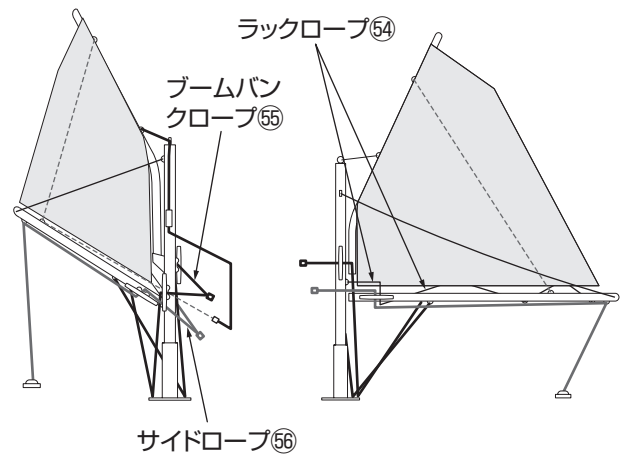
要 点

- 調整がうまくいかない場合は(6)、(7)、(8)を繰り返して調整します。

- (9) ブームバンクロープ⑥⑤をセイル後端にテンションが掛かるように引っ張り、クリートに固定します。

要 点

- ブームバンクロープ⑥⑤の引きが弱いとスパンカーの効きが悪くなります。



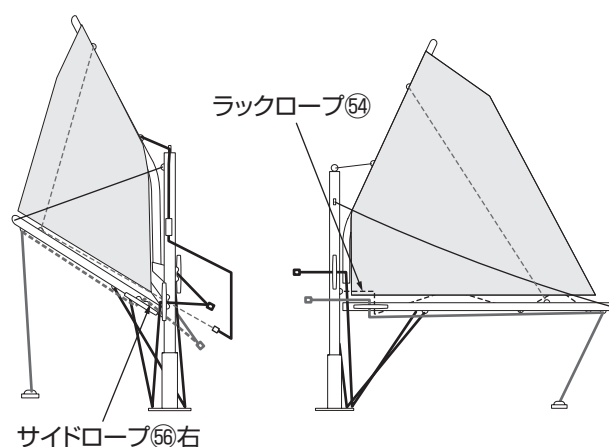
- (10) 各ロープの先端は、エンジンや水面に当たらないようにまとめます。

取扱方法 収納のしかた

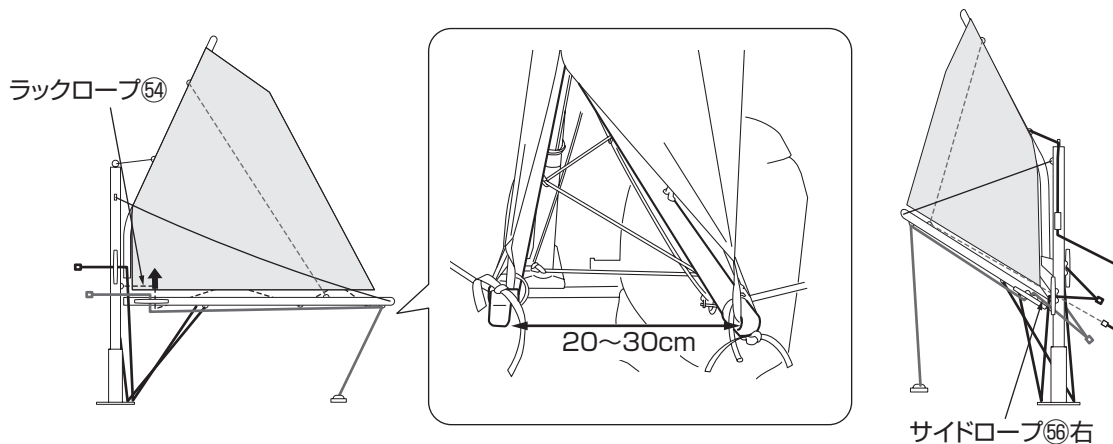
- (1) 左舷ブームクリート④⑤に固定してあるラックロープ⑤④を緩めます。
- (2) 右舷ブームクリート④⑤に固定してあるサイドロープ⑥⑥右を緩めます。

要 点

- サイドロープ⑥⑥左は固定しておきます。



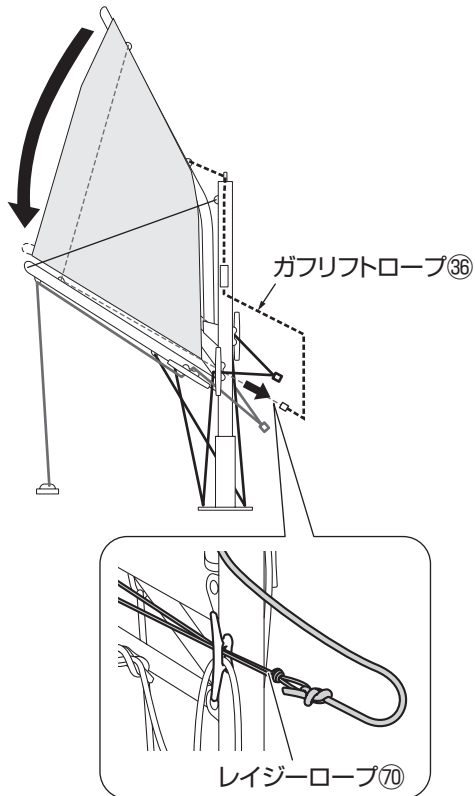
- (3) ラックロープ⑤④を引っ張って、ブームパイプ④④左右先端の距離が20~30cmになるように調整し、サイドロープ⑥⑥右をブームクリート④⑤に仮止めします。



- (4) レイジーロープ⑦⑩を引っ張りながら、ガフリフトロープ③⑥をクラムクリート②⑥の固定部から外して緩め、セイルを収納します。

要 点

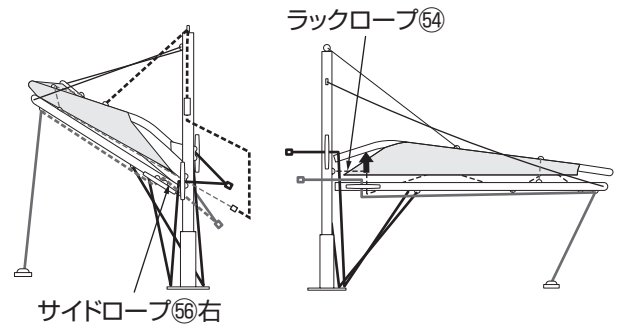
- セイルを収束させるためにレイジーロープ⑦⑩を引っ張りながら作業します。



- (5) 仮止めしたサイドロープ⑤⑥右を緩め、ラックロープ④⑤を引っ張り、ブーム⑧を完全に閉じます。

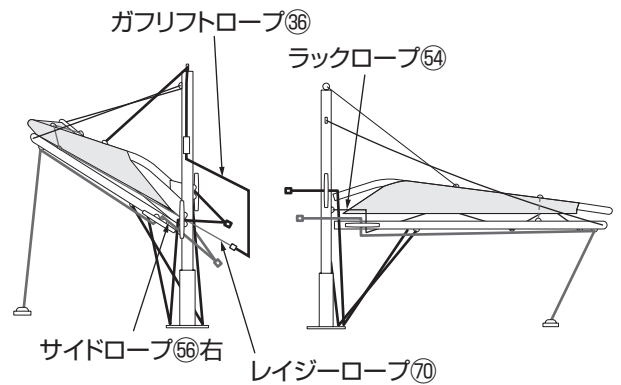
要 点

- 左右のブーム⑧の間にガフ③が入るようにします。



- (6) サイドロープ⑤⑥右とラックロープ④⑤とガフリフトロープ③⑥をそれぞれクリートに固定します。

- (7) レイジーロープ⑦⑩を引っ張り、マストクリート②⑧に固定します。



- (8) セイルが風でばたつかないか、全てのロープが固定されているか確認します。

注 意

- スパンカーを収納状態で保管する場合は、セイルに水が溜まらないようにしてください。セイルが汚れていると、次に使用するとき性能が発揮できない可能性があります。

取扱方法 回転格納のしかた

(1) スパンカーを収納状態にします。(24~25ページの「収納のしかた」参照)

(2) マストクリート⑳に固定してあるブームバンクロープ㉔左右を緩めます。

要点

- ブームバンクロープ㉔を緩めるため、一度レイジーロープ㉗を緩め、再度固定します。

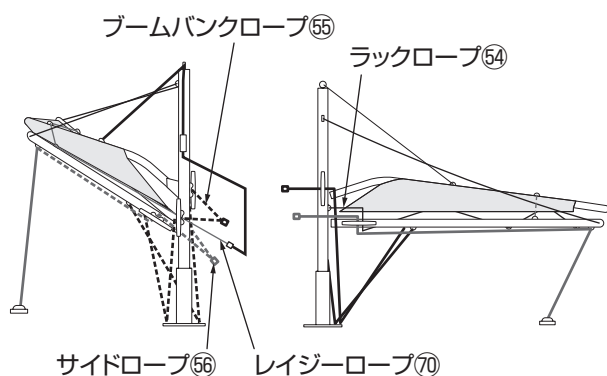
(3) ブームクリート㉕に固定してあるサイドロープ㉖左右を緩めます。

警告

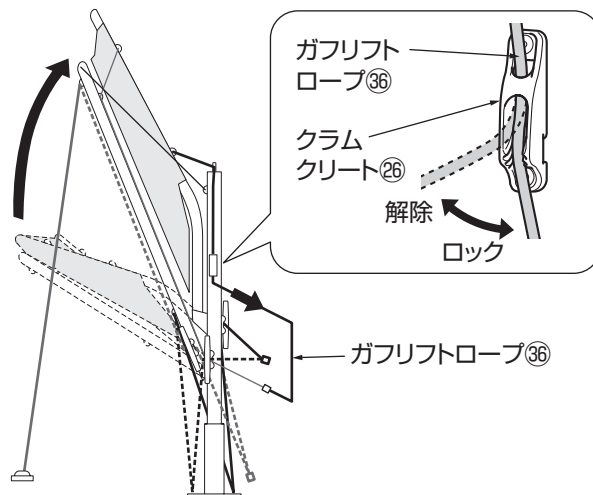
- 風でブーム㉑が振られる場合があるので、サイドロープ㉖左右は放さずに持っているか、クリートに仮止めしてください。振られたブーム㉑が身体に当たると、けがをしたり落水する恐れがあります。また、ブーム㉑が艇体に当たり、損傷する恐れがあります。

要点

- サイドロープ㉖を緩めるため、一度ラックロープ㉙を緩め、再度固定します。

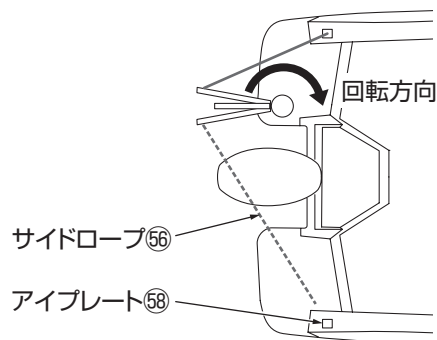


(4) ガフリフトロープ㉚をクラムクリート㉞の固定部から外し、ロープを引いてガフ㉑とブーム㉑を引き上げ、ロープをクラムクリート㉞の固定部にはめ込みます。



(5) サイドロープ㉖左右をブームクリート㉕に固定します。

(6) 回転させる反対方向の、艇体側のサイドロープ㉖艇体側をアイプレート㉟から外します。



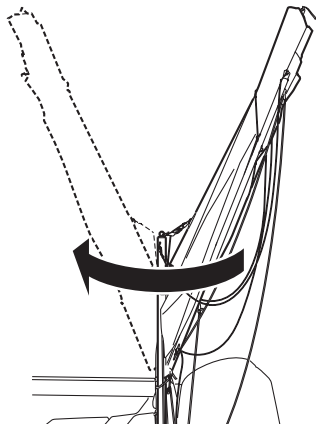
(7) マスト㉑を中心にスパンカー全体を格納位置まで回転させます。

警告

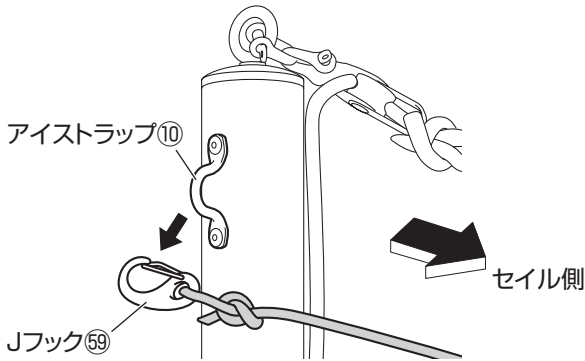
- 周囲の人や物に注意をして、回転させてください。

要点

- うまく回転できない場合は、ロープが引っ掛かっていたり固定されていたりしないか確認してください。

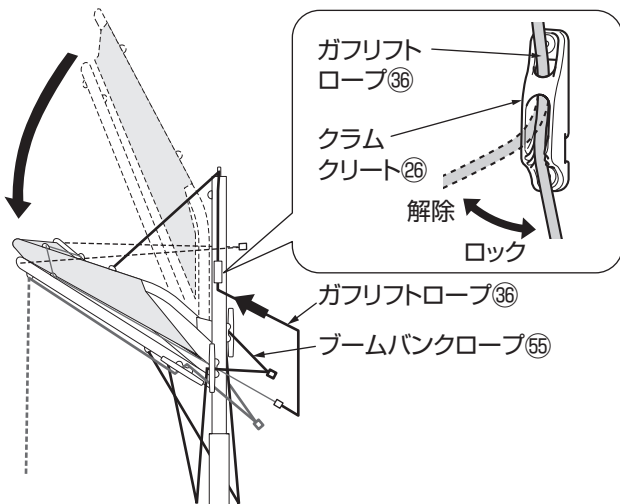


(8) ブームリフターロープ⑤⑦左右先端のJフック⑤⑨をマスト④のアイストラップ⑩から外し、マスト④のセイル側で両端を結びます。



(9) ガフリフトロープ③⑥をクラムクリート②⑥の固定部から外し、ロープをゆっくり緩めてガフ③とブーム⑧を格納位置まで下げ、ロープをクラムクリート②⑥の固定部にはめ込みます。

(10) ブームバンクロープ⑤⑤左右をマストクリート②⑧に固定します。



(11) 取り外したサイドロープ⑤⑥ (艇体側) 及びブームリフターロープ⑤⑦を邪魔にならない位置に固定します。

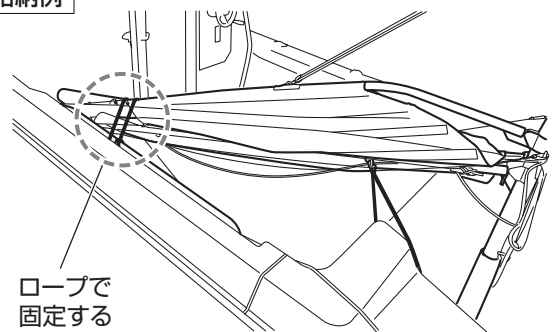
(12) 全てのロープが固定されているか確認します。

(13) スパンカーの先端付近をロープで艇体に固定します。

注意

- 長期間使用しない場合は、スパンカーを船から外して、直射日光の当たらない場所に保管してください。短期間の場合は、セイルのばたつきを抑えるためにスパンカー全体を固定してください。さらに、保護カバーを掛けると、紫外線などでの劣化を抑えることができます。
- スパンカーを引き上げた状態で保管をしないでください。風などの影響でスパンカーや他の物に損傷を与える恐れがあります。
- スパンカーを格納する場合は、セイルに水が溜まらないようにしてください。セイルが汚れていると、次に使用するとき性能が発揮できない可能性があります。

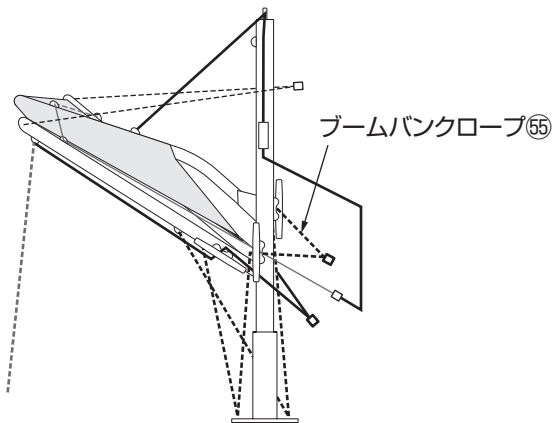
格納例



取扱方法

格納状態から収納状態にする場合

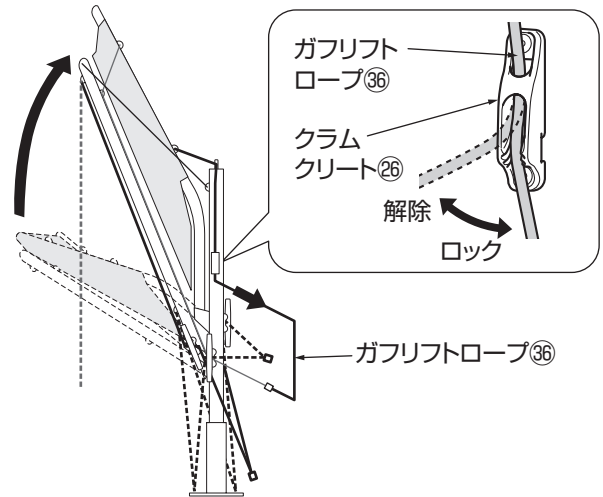
- (1) スパンカーが艇体に固定されている場合は、固定を外します。
- (2) マストクリート²⁶に固定してあるブームバンクロープ⁵⁵左右を緩めます。



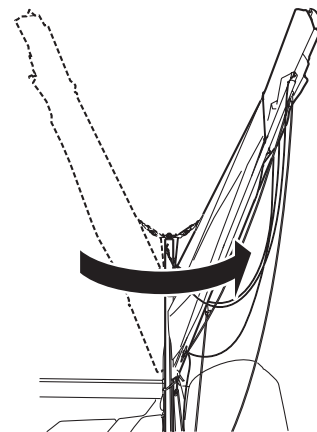
- (3) ガフ³とブーム⁸を持ち上げて、ブームリフターロープ⁵⁷左右の先端に付いているJフック⁵⁹をマスト^Aのアイストラップ¹⁰へ掛けます。



- (4) ガフリフトロープ³⁶をクラムクリート²⁶の固定部から外し、ロープを引いてガフ³とブーム⁸を引き上げ、ロープをクラムクリート²⁶の固定部にはめ込みます。



- (5) スパンカー全体を収納位置まで回転させます。

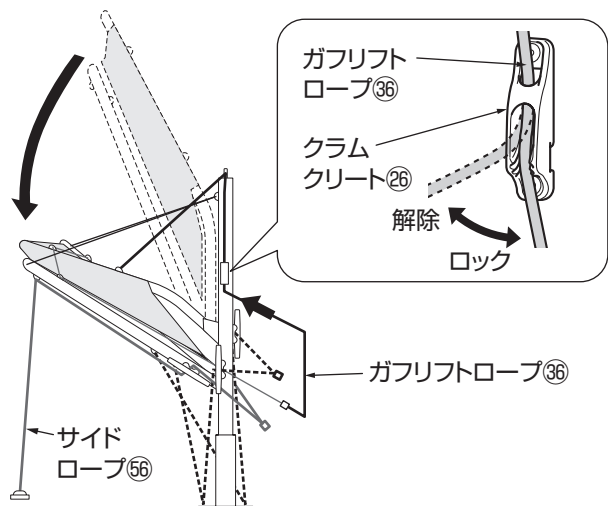


要点

- ブームリフターロープ⁵⁷がマスト^Aのアイストラップ¹⁰に掛かっているか確認してください。掛かっているとガフリフトロープ³⁶を緩めたときに、ブーム⁸、ガフ³、セイル⁷が水面まで落ちる場合があります。

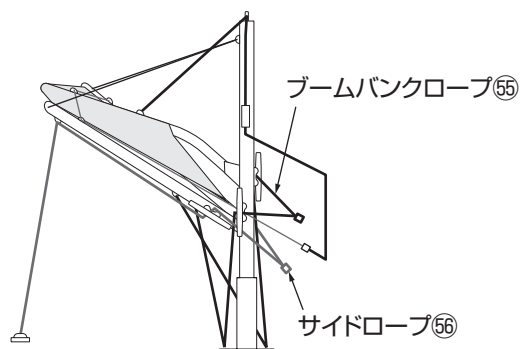
(6) サイドロープ⑤⑥の先端を艇体のアイプレート⑤⑧に固定します。

(7) ガフリフトロープ③⑥をクラムクリート②⑥の固定部から外し、ロープをゆっくり緩めてガフ③とブーム⑧を下げ、ロープをクラムクリート②⑥の固定部にはめ込みます。



(8) サイドロープ⑤⑥左右をブームクリート④⑤から外し、ロープを引っ張ってブーム⑧位置を収納位置まで調整します。サイドロープ⑤⑥左右をブームクリート④⑤に固定します。

(9) ブームバンクロープ⑤⑥左右を引っ張り、マストクリート③⑧に固定します。



(10) 全てのロープに緩みがないか確認します。

(11) エンジンを左右に転舵させ、スパンカーと干渉しないか確認します。

定期点検

定期点検に関する必要事項を表示しています。

点検をおこたると、操作に支障が発生したり、スパンカーが破損する恐れがあります。

日常点検

項目	内容
ロープ	摩耗点検
取付ボルト・リベット	緩み点検／調整
マスト・ガフ・ブーム	緩み点検／調整
ブロック・マストステップ	緩み点検／破損点検／交換・潤滑防腐剤塗布

※海水等がかかった場合は、必ず真水で洗ってください。

年次点検

項目	内容
ロープ	摩耗点検／交換
取付ボルト・カラー・リベット	緩み点検／交換・摩耗破損点検／交換
マスト／ガフ／ブーム	摩耗、変形、破損点検／交換
セイル	破損点検／交換

3年次点検

項目	内容
ロープ	交換
ブロック	交換

ロープの摩耗点検と交換

使用ごとにロープの摩耗や損傷の有無を点検し、外皮のめくれなどがある場合は交換します。

⚠ 警告

- 切れかかったロープを使用し続けると、突然の衝撃などでロープが切れてけがをする恐れがあります。

スパンカーによる船の流し方

はじめに

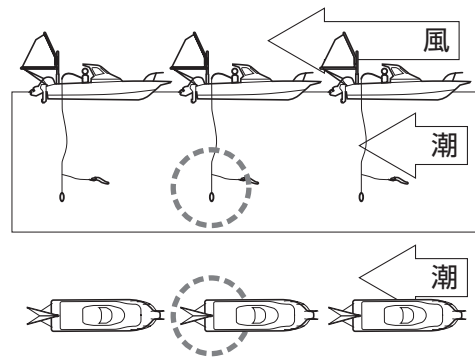
従来、「流し釣り」と言えば微速装置の付いたインボード（船内機）艇で行なうものというイメージがありました。これに対し船外機艇は流し釣りに向いていないと言われていました。

しかし船外機艇であってもYFシリーズに代表されるヤマハのウエイブ・スラスタ・ブレード付きフィッシングポートなら、良好な風流れ抑止性能を発揮するため、ハイレベルな流し釣りを実現することができますので、船外機艇でも流し釣りを楽しむことができます。

流し釣りとは

流し釣りとは、船が風で押されて流されるのを、ステアリング操作とボートの推力調整をすることによって相殺し、潮と同調させて船を流す釣り方です。

ボートが潮と同調して流れている場合、二枚潮などの場合を除き、海中の道糸は真っ直ぐ、垂直に垂れています。右図は、潮の流れと風向きが同一の場合のボートの動きをイメージしたものです。

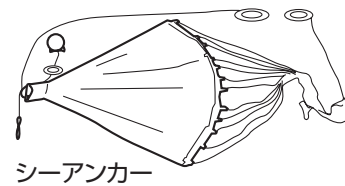


流し釣りはステアリング操作と、ボートの推力調整だけで出来るものではありません。

スパンカーやシーアンカー、ボートの推力調整用の専用原動機（エレクトリックモーターや船外機など）を装備することによって船首を風上に立てる流し釣りが可能となります。

但しエレクトリック（電動モーター）を使用する場合はバッテリー容量の管理、シーアンカーではパラシュートの揚げ降ろしのような手間が必要となります。

ここでは、一般的に遊漁船などで普及しているスパンカーを使っての流し釣りを紹介します。

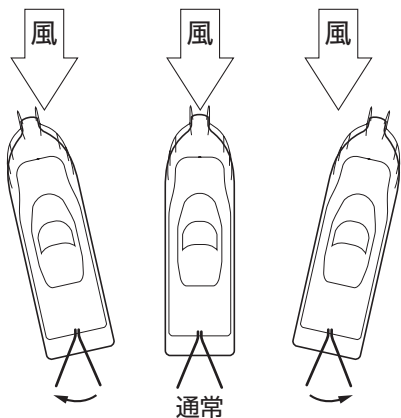


スパンカーによる船の流し方

1. 流し釣り操船のコツ

釣りに集中するためには、ボートを流すときの操船の負担を極力少なくすることが重要です。ここでは、スパンカーを使った流し釣りにおける、ちょっとした操船のコツをご紹介します。

- (1) スパンカーのセイル(帆)はしっかりと張ります。張りが弱いと風立ちが悪くなります。
- (2) 頻繁に船首が振られ、ステアリング操作が複雑だと釣りの楽しさも半減です。スパンカーのセイルの角度やステアリングを少しずつ振ってみて、最もステアリング操作が楽な向きを探してください。潮や風、釣り方によって風上に真っ直ぐに向けた方が良い場合もあれば、風上から少し船首に角度をもたせた方が良い場合もあります。



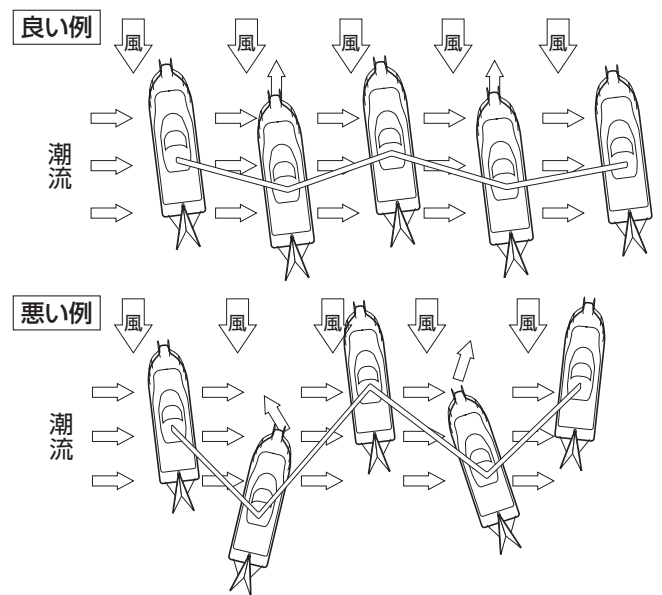
要 点

- スパンカーを左右に振ることにより、風に対する船首の向きを調整することができます。

- (3) ボートの向きが変わってから、シフトおよびスロットルを操作するのでは修正に時間がかかってしまいます。ボートの次の動きをイメージして早めに対処することがポイントです。風見をつけておくと、船の振られ方が予測できます。

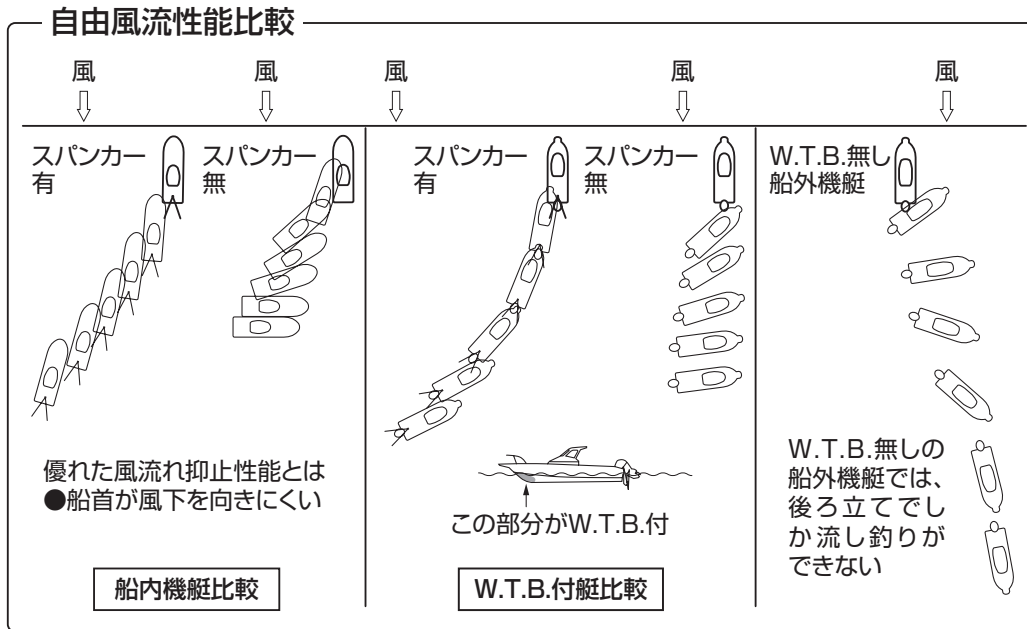
要 点

- 船が風で押される前にシフトを入れる、船に行き足がつくまえにシフトを抜きます。



2. スパンカーを使った流し釣り

スパンカーを装備していても、ボートは風で押されて流されます。ステアリング操作とボートの推力調整をしなければ、ボートは風に流されてしまい、船首を風上に立てることはできません。(下図参照)

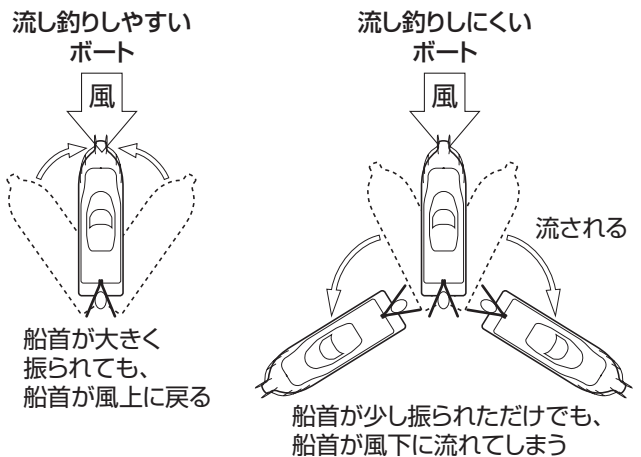


同じタイプ(大きさ)のスパンカーを装着していても、流し釣りのしやすさはボートによって異なります。船首が大きく振られても船首が風上に戻るボートであれば船首向きのコントロールがしやすいため、流し釣りがしやすい船と言えます。逆に、波や風で船首が少し振られただけで、船首が風下に流れてしまうボートでは、船首向きのコントロール(修正)で手一杯となり釣りどころではなくなってしまいます。

したがって、流し釣りを楽しむためには、ボートの選択が非常に重要となります。従来タイプの船外機艇は、船首を風上に戻すことのできる振れ角の範囲が非常に狭く、流し釣りに向いているとは言えませんでした。ヤマハの新世代フィッシングボートF.A.S.T.26や、YFシリーズでは、独自のウェイブ・スラスタ・ブレード(W・T・B)が優れた風流れ抑止性能を発揮するため、良好な風立ち性を実現し、流し釣りに対応可能な性能を持っています。

要 点

- スパンカーを装備しても適切な操船をしなければ流し釣りはできません。重要な操船のポイントは以下の2点となります。
 1. シフト及びスロットル操作で、船が風で押されて流されないようにする。
 2. スパンカー向き及びステアリング操作で、船首を風上へコントロールし、保持します。



スパンカーによる船の流し方

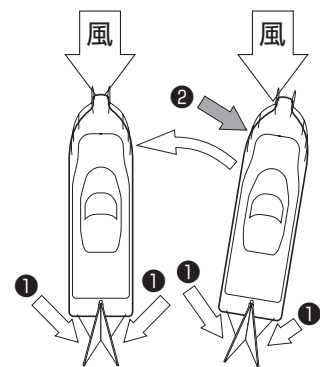
スパンカーを張り、船首を風上に向けると、風によってスパンカーには図の矢印(①⇨)の向きに揚力が発生します。

この力は、船首が風上に近い方向にある場合には、船首を風上に向けける方向に働きますが、船首が風上から振れると、風がハルやブリッジの片面に当り、船首を風下に向けようとする力(②⇨)が発生します。

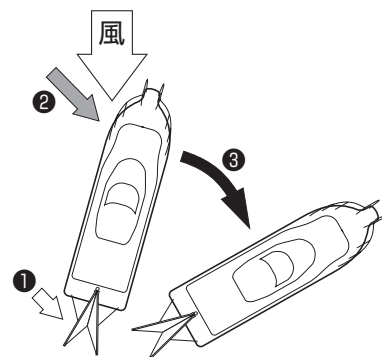
風向きと船首の振れ角度が小さければ、船首は風上に戻りますが、振れ角度が大きくなるとスパンカーの揚力が小さくなり、船首を風下に向けようとする力が大きくなるため、船首を風上にコントロールし、保持することができなくなります。したがって、風向きが変わったり船首が波などで振られた場合には、早い段階で船首向きの補正が必要となります。

「風立ち性が悪いボートでも大きなスパンカーを立てればいいんじゃないの？」確かに大きなスパンカーを装着すれば風立ち性は向上しますが、あまりに大きなスパンカーを装着すると、取り扱いしにくいばかりか、強風時には操船不能に陥ったり、最悪の場合、横風を受けて転覆する恐れもあります。船の長さに応じたスパンカーサイズのを装着するようにしましょう。安全はもちろんですが、取り扱いの面からもボートが風に立つ範囲でスパンカーはできるだけ小さいものを選びます。

その点からも、風立ち性に優れた基本性能を持つボートを、選択することが重要と言えます。



船首の振れ角度が小さければ船首は風上に戻る

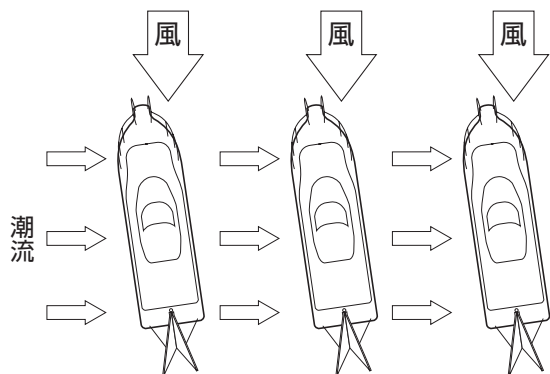


船首の振れ角度が大きくなると船首は風下に流されてしまう

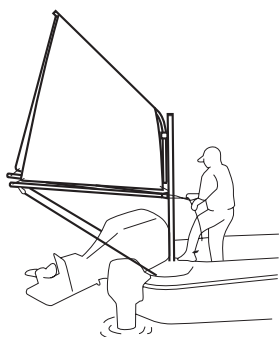
3. さあ流し釣りに行きましょう

船もスパンカーも揃ったら、流し釣りに行きましょう。

- (1) まず、ポイントに到着したら、潮流や風向を確認し、どここのポジションからどの方向に流すかをシミュレーションしてください。



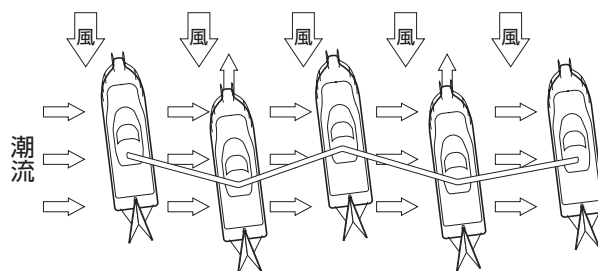
- (2) スパンカーのセイルを張りましょう。その前に補機操船の場合は補機を下ろし、主機をチルトアップしてください。セイルの張り方によって、風立ち性が変わりますので、セイルをしっかり張るようにしてください。



- (3) ポイントの潮上にボートを操船し、船首を風上に向けます。

- (4) ボートが風で押されて流されるのをステアリング操作とボートの推力調整によって相殺し、潮と同調させてボートを流します。

風の強さは一定ではないので、推力の調整のためには、こまめにシフトとスロットルの操作が必要です。



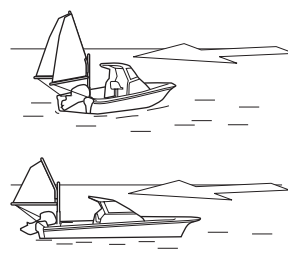
- (5) 風向が変わった場合や波で船首が振られた場合は、船首が大きく流される前に素早く修正することが必要です。

流し釣りを楽しむにあたっては、当日のコンディションや周囲の船の状況にも十分な注意が必要です。風や潮流の強さや向きによっては、同じ場所であっても非常に難しい場合もありますので、経験と技術を磨き、流し釣りを楽しんでください。

- (6) スパンカーをたたみ、帰港しましょう。補機操船の場合は主機を下げ、補機をチルトアップしてください。

要 点

- 艇やスパンカーやその他の装備品により風流れ性能が異なります。風流れが悪い（船首が振られやすい）場合、頻繁にステアリング操作が必要となるため、艇はもちろんスパンカーの大きさ等、艀装品は慎重な選択が必要です。



MEMO

不 許 複 製

名	称	: ローマストスパンカー
		取付・取扱説明書
部	品	No. : QX4-000-001-M01
発	行	: 株式会社 ワイズギア
		2014年 6月

保証書

保証期間 1 年間
(お買い上げ日から)

持込修理

名 称	ローマストスパンカー	お買い上げ日	20	年	月	日
お客様			取付店			
お名前	様	店 名				
ご住所 〒		所在地 〒				
TEL		TEL				

株式会社 ワイズギア

〒432-8058 静岡県浜松市南区新橋町1103

商品に関するお問い合わせ

「0570-050814」

オープン時間 月曜日～金曜日（祝日、弊社所定の休日は除く）

9：00～12：00 13：00～17：30

〔保証規定〕

この保証書は、本書に明示した期間、条件のもとにおいて、下記記載内容で無料修理をお約束するものです。保証期間経過後の修理などについて、ご不明の場合は、販売店にお問い合わせください。保証期間内に取扱説明書の記載内容にしたがった正常な使用状態で故障した場合には、本記載内容にもとづき無料修理いたします。お買い上げ日から保証期間内に故障した場合は、商品と本書をお持ちいただきお買い上げ販売店に修理をご依頼ください。

- 保証期間内でも次のような場合は有料修理となります。
 - ① 使用上の誤り、または改造や不当な修理による故障または損傷。
 - ② お買い上げ後の落下、輸送などによる故障または損傷。
 - ③ 火災・地震・水害・落雷・その他の天災地変、公害などによる故障または損傷。
 - ④ 本書のご提示がない場合。
 - ⑤ 本書にお買い上げ年月日、お客様名、販売店名の記入のない場合、あるいは字句を書き換えられた場合
 - ⑥ 消耗品は有料修理となります。（樹脂部品・ロープ・セイル・リベット・ブロックベアリング等）
- この保証書は再発行いたしませんので大切に保管してください。
- この商品は持込修理に限らせていただきます。出張修理はいたしません。
- 本書は日本国内においてのみ有効です。

This warranty is valid only in Japan.